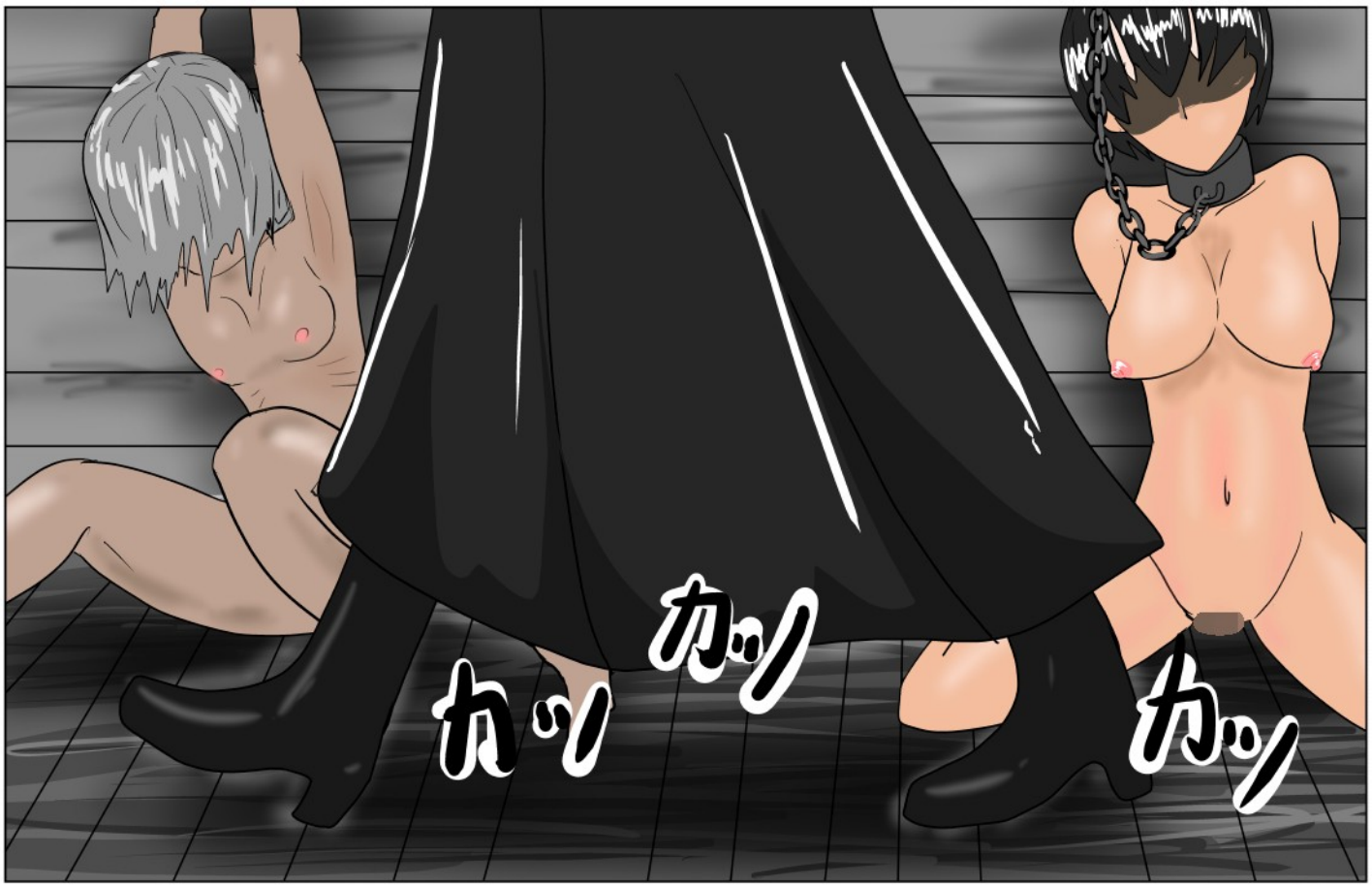
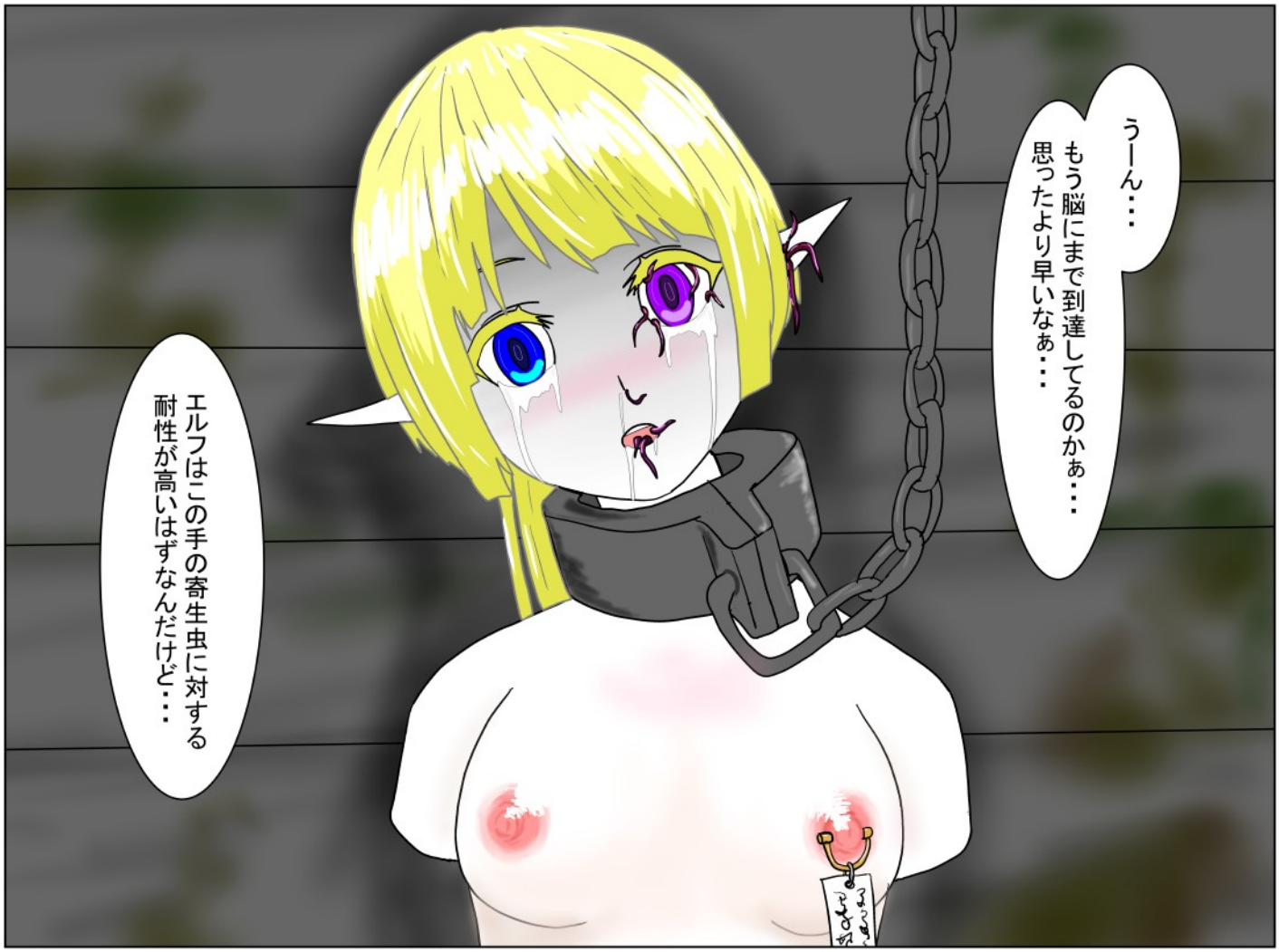

魔女堕とし


カツ
カツ
カツ
カツ


あら？
見に来るのが少し遅かったかしら・・・

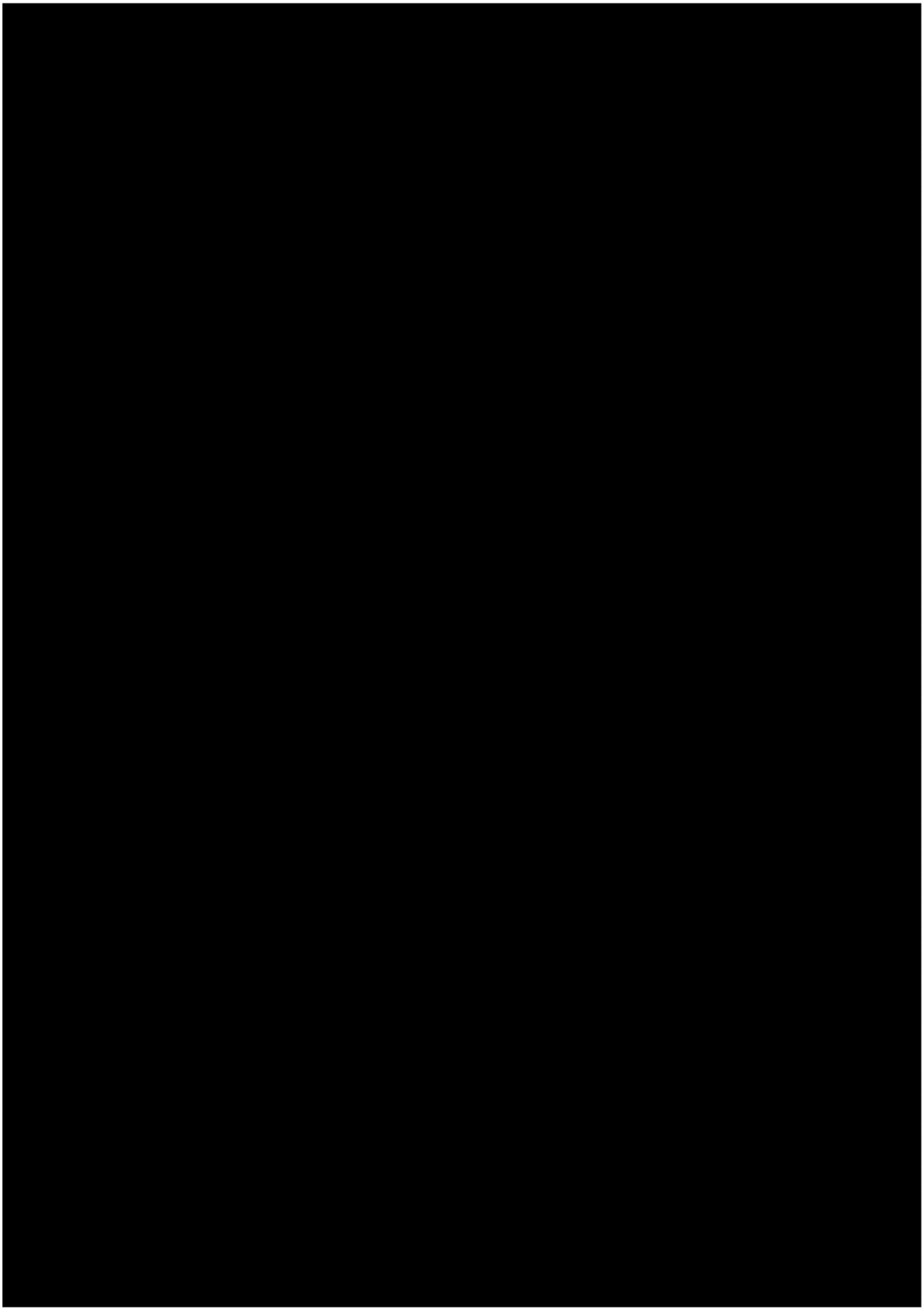

ディアナ・マギカ
魔族殲滅、魔界征服を目指す魔術結社「星捧社」の急進派幹部。
魔族はもちろん、人族であっても敵対者を容赦なく
殺戮する姿から。「鮮血の魔女」と恐れられている。


うーん…
もう脳にまで到達してるのかぁ…
思ったより早いなぁ…
エルフはこの手の寄生虫に対する
耐性が高いはずなんだけど…


まあこの環境じゃ
免疫も落ちちゃうか。
手足が無い分
体液量も少ないし…
もう少し密に
経過観察しないとダメかしらね…
カリ
カリ
カリ
カリ


せーんーせ！
きゃっ！
もう！
姫様！
どうなさったんですか？
ダキ!?
先生、少し働き過ぎですわ。
今日は御一緒に食事でもどうかなと思いまして。
ふふ、
姫様直々のお誘いとあっては断れないですね。
ギュッ


私また先生が魔族を倒した時の話、聞きたいです。
そうですね・・・
では、ダークエルフの暗殺部隊を返り討ちにした時の話でもしましょうか。
ダークエルフは普通のエルフより耐久力が高いので、拷問が長く楽しめるんですよ。



物語

魔界に隣接する人族の国「ローグルン王国」では、王が病に倒れて以降、王女と王子が政務を代行していた。彼らは魔界での魔族狩りを奨励し、国内では魔族たちへの迫害を強めていた。
ローグルン王国の王宮地下室では、魔族への拷問が大規模に行われており、王女と王子、王族付きの魔術師たちにより、大虐殺へと発展していた。

魔族たちは人類からの攻撃に苦しむ一方で、魔族同士の争いも激しく、人類側への有効な反撃が行えないまま、人類の魔界領域への侵入を許し続けていた。

そんな中、魔界の最深部で目覚めた1体の魔神が、魔界の有力魔族のほとんどを配下に収め、「魔導帝国」の建国を宣言した。







魔界の大半を手中に収めた魔導帝国は、人類国家の全てに魔族への迫害中止及び魔界への侵入停止を求めたが、ほとんどの人類国家はこれを無視する。



魔導帝国は敵対的な人類国家全てに対して宣戦を布告。
ここに人魔大戦の火ぶたが切って落とされた。

人類は対魔族人類連合軍を組織して大軍で魔導帝国の攻撃を迎え撃ったが、魔導帝国は異世界から持ち込まれた機械兵器の数々を運用し、さらに、いままで人類と敵対的ではなかった強力な魔人達が協調して魔導帝国側に参戦したことによって大敗北を喫することになった。

魔導帝国の最初の攻撃目標として直接侵攻を受けたローグルン王国は瞬く間に全土を制圧され、
王都は直接攻撃の脅威にさらされることになる・・・


連合軍は壊滅状態です！
総司令部を含めて高級幹部のほとんどが行方不明で統制の回復は見込めません！
敵は見たこともない兵器を多数投入しており、
我が魔法部隊の射程外から大火力で攻撃を・・・
機動力も凄まじく・・・
敵の先鋒は既にローグルン王国領内への侵攻を開始しています！
現在我々は蹴散らされた部隊のうち比較的損害の少ない者たちを吸収しながら撤退しておりますが・・・
正直、部隊の再戦力化は難しい情勢です・・・
敵の戦闘力と移動速度は我々の予想を超えています！
ローグルン王国の王都陥落は時間の問題です！
ディアナ、すぐにそこを脱出するんだ！
場合によっては下級要員を切り捨ててもかまわん。
君だけは何としてもこちらに帰ってこい！
研究成果のほとんどを捨てていかなければいけないのが残念ですが・・・
仕方ありませんね・・・
持って行けないものはすべて処分して・・・
ローグルン王国とはお別れですね。
バタン
ローグルン王国からの撤退が決定した。
地下牢に油を流し込んで火をつけろ。
何も残すな。
ローグルンの兵士たちに気取られるなよ。
了解！


ザッ
ディアナ様！
王都防衛のための御前会議が
招集されています！
姫殿下の執務室まで
至急御越し下さい！
既に他の大臣方は
集まっておいでです！
ヒュパッ
こいつらも運が悪い…
私を呼びに来なければ
あと数日長く生きられたのに。
急ごうか。
はっ！


ドンッ
うわ!?
わっ!?
なっ…
なんだ…?
ちっ…
思ったより早い…
攻撃?
まさか…!
私は研究資料をまとめて
脱出の準備をする。
お前たちは地下牢の処理を急げ!
了解!
法具召喚…!
悪いが先に行かせてもらう。
私はここでのたれ死ぬわけにはいかないからね。


ビュオッ
最大加速!!
ゴオン!!
バダ
バダダ
バダダ
バダ
!?
バダ
バゴ
バゴ
バゴ
バゴ
バゴ
バゴ
なんだ!?
魔導軍か!?

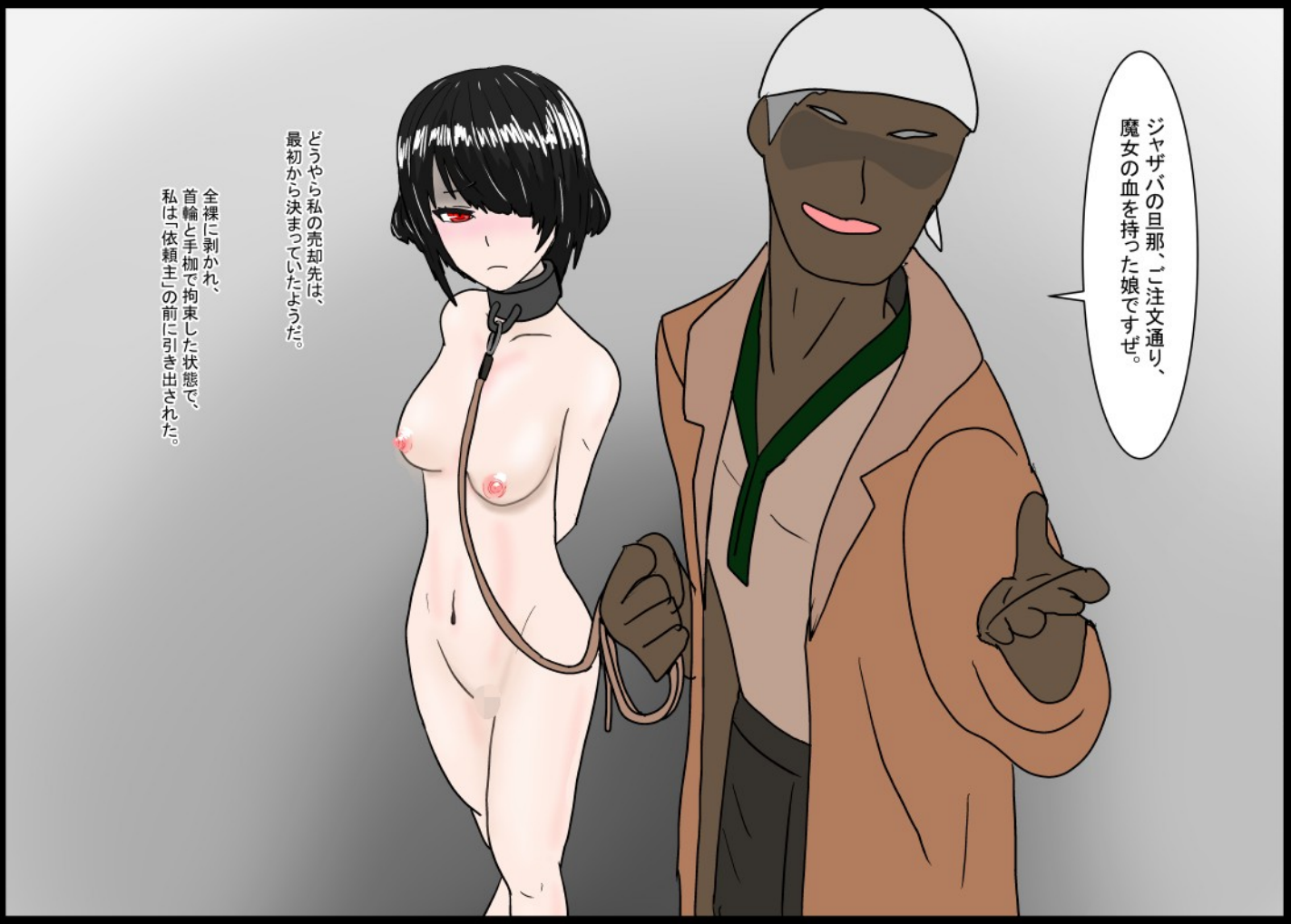

ドカ
ドカ
ドカ





だけどその幸せは、
あっけなく壊された。


私と母に流れる「魔女の血」を求めた
ハンターたちによって、
幸せな家庭は永遠に失われた。
元騎士といっても、
15年前線に出なけりゃこんなもんか。
おい、母親もやっちまったのか？
美人なのにもったいねぇ
攻撃魔法の詠唱を始めたんだからしかたねぇだろ。
やらなきゃ全員黒焦げにされてたぞ。
娘が無事なら依頼は問題ないだろ。
ほら、来な、嬢ちゃん。
新しいおウチに連れて行ってやるよ。
離して…！
い、いや…！
おいおいそんなに怖がるなよ。
おれたちはお前に酷いことしないぜ。
おれたちは…な。


ジャザバの旦那、ご注文通り、
魔女の血を持った娘ですぜ。
どうやら私の売却先は、
最初から決まっていたようだ。
全裸に剥かれ、
首輪と手枷で拘束した状態で、
私は「依頼主」の前に引き出された。


おお！
おお！素晴らしい！
確かに魔女の血の
強い力を感じる！
よくやった。
報酬は弾んでおくよ。
3対の腕と2対の足を持つ異形の化け物が、
私の家族を壊し、
これから私の人生そのものも
壊そうとしている張本人のようだ。


おや？
怯えているのかな？
大丈夫だよ、
安心しなさい。
私は君を傷つけたりするつもりはないよ。
何せ君は大切な大切な・・・

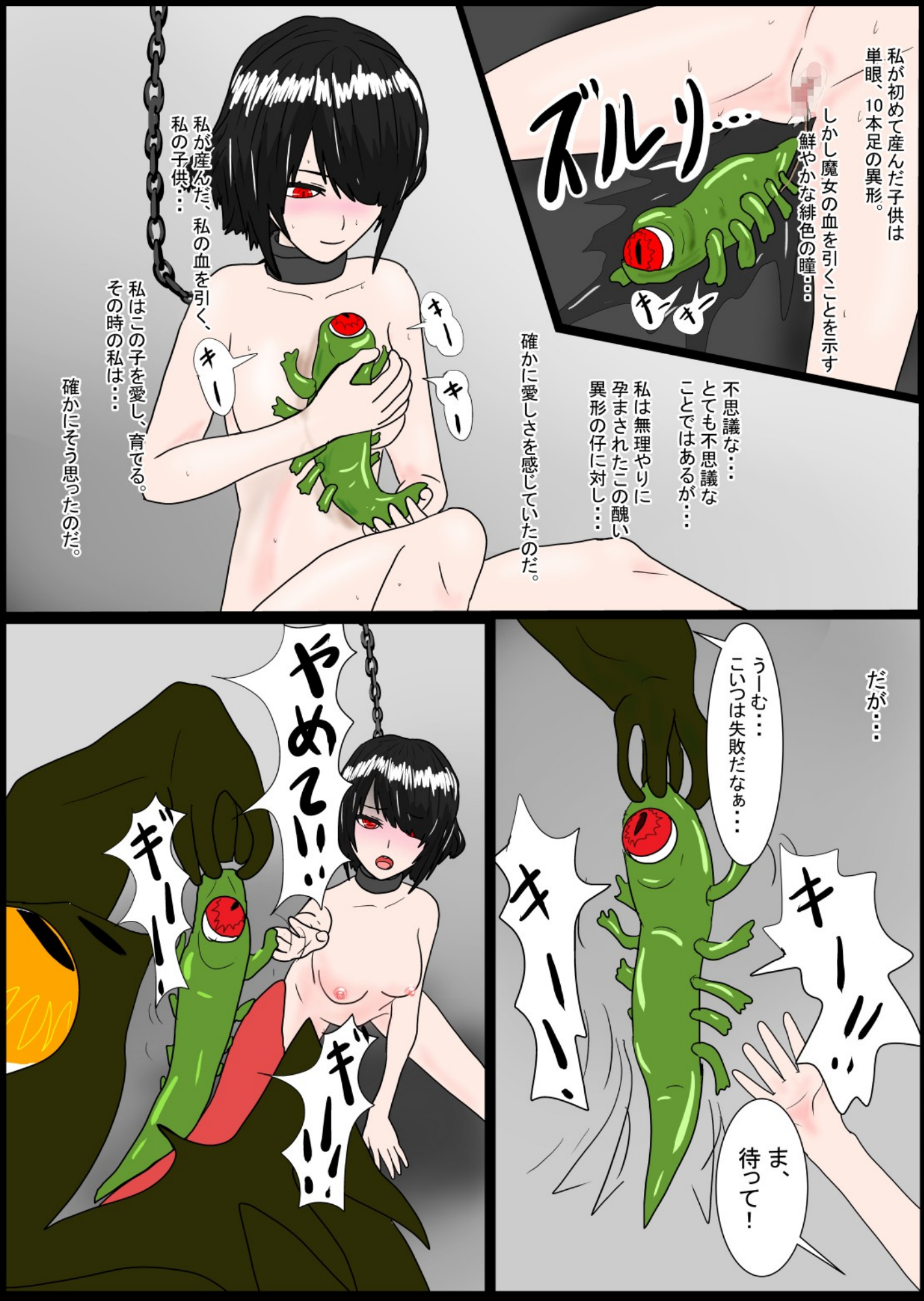

私の花嫁なのだから。
たっぷりかわいがって・・・
たっぷり子種を注いであげるからね。
良い仔をたくさん産んでおくれよ・・・

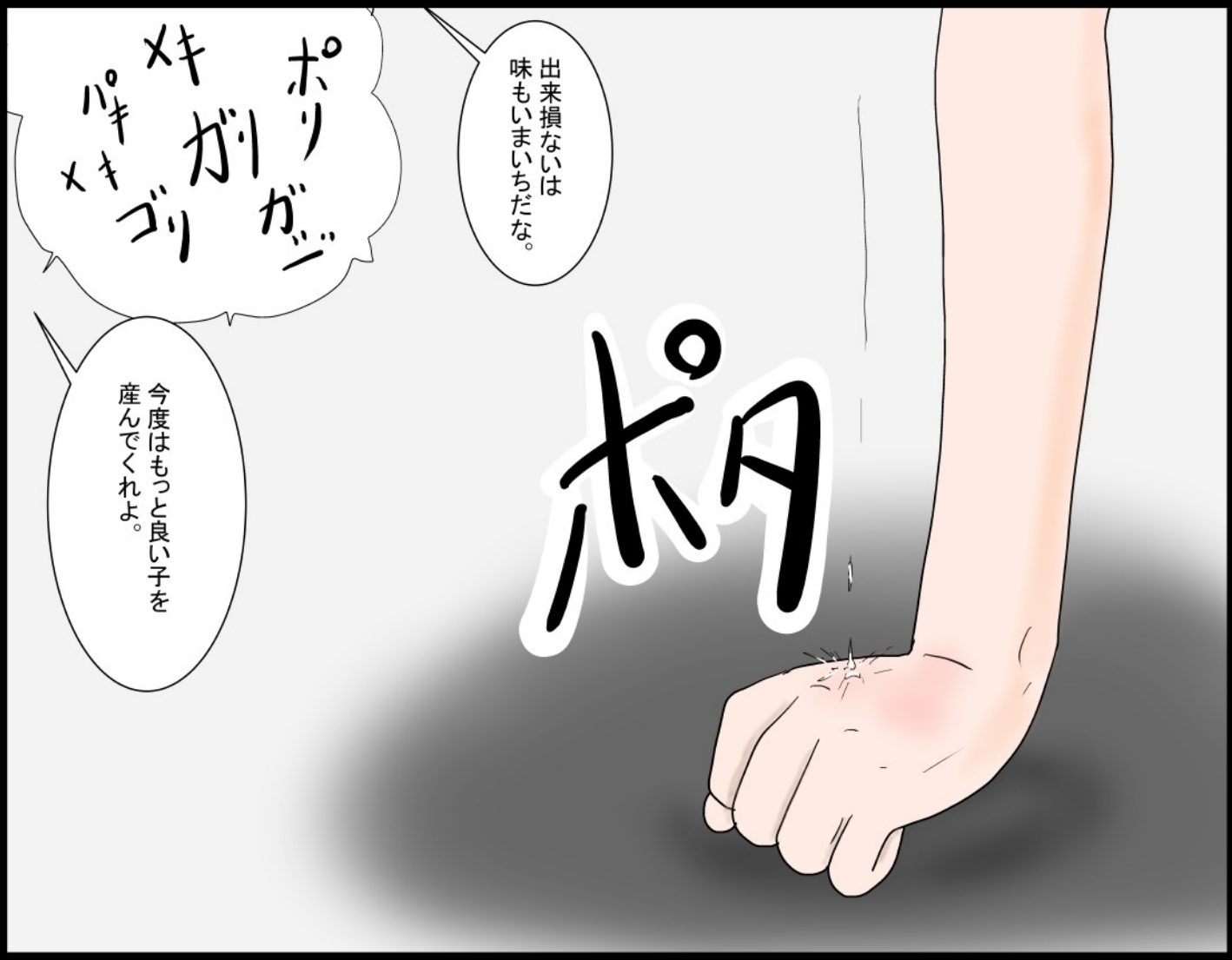

そのときから、
忘れたくても決して脳裏から消し去れない、
地獄のような日々が始まった。
君の体はまだ幼いからね、
私のモノを受け入れられるように
しっかりとほぐしてあげようね。
魔物は宣言通り、
恐るべき形状の器具の数々で、
私の敏感な部分を掻き毟った。
私は丁寧に、満遍なく、
徹底的に嬲られた。
うっ
ぐっ
ふっ
うっ
ゴリ
ゴリ
グッ
ゴリ
ゴリ
ガリ
ガリ
ガリ
ガリ
ガリ
ヌコ
ヌコ
ヌコ

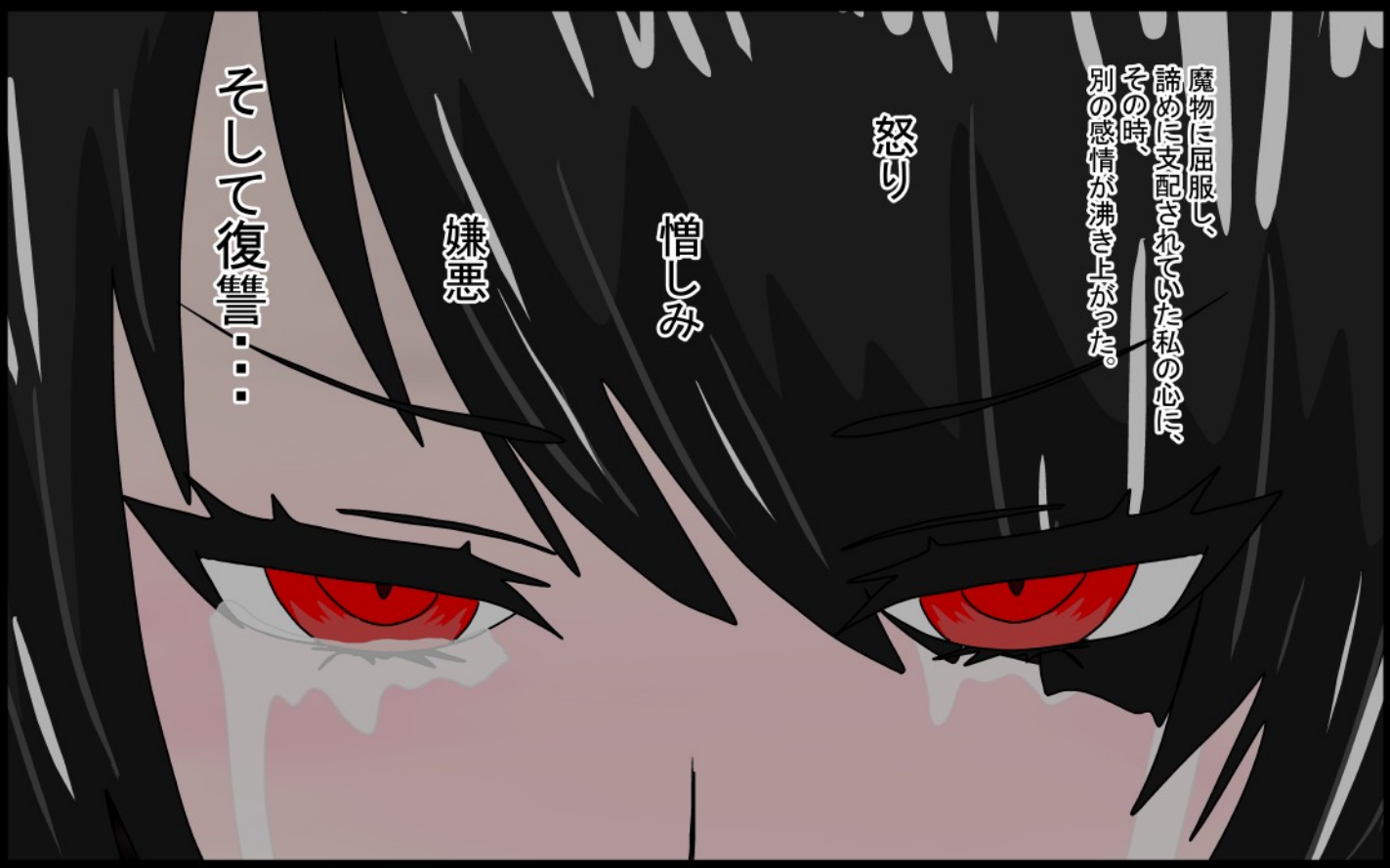

魔物に買われてから1週間後…
いとも簡単に私の処女は奪われた。
私の膣は1週間かけて徹底的に耕されていた。
しかしそれでも、
魔物の剛直は受け入れがたい苦痛と圧迫感で私を苛んだ。
はっ
あっ
うあっ
ミチ
ギチ
ギチ
ミチ
ミチ
前穴の処女を失ったその日のうちに、
アナルの処女もあっさりと奪われた。
身震いするような異物感、
引き裂かれるような痛み、
内臓を押しつぶされて呼吸もままならず、
私は魔物の引き抜く動きに合わせて
酸素を求めて必死に喘いだ。
ジュグ
ズポ
ズグチュ
ジュポッ
はっ
はっ
かはっ
あがっ
あっ


ゲポッ
ゴプ
ベチャ
ドロ…
処女を失ってから3日間…
魔物は私に精を注ぎ続けた。
ヒュー
カヒュー…
カヒュー…
ズリズリ
ズリ
膣、アナルはもちろん、
口、耳、鼻、目、尿道…
私の体で、精液の注がれていない穴は
1つも無くなった。
ベチャ
ドロ…

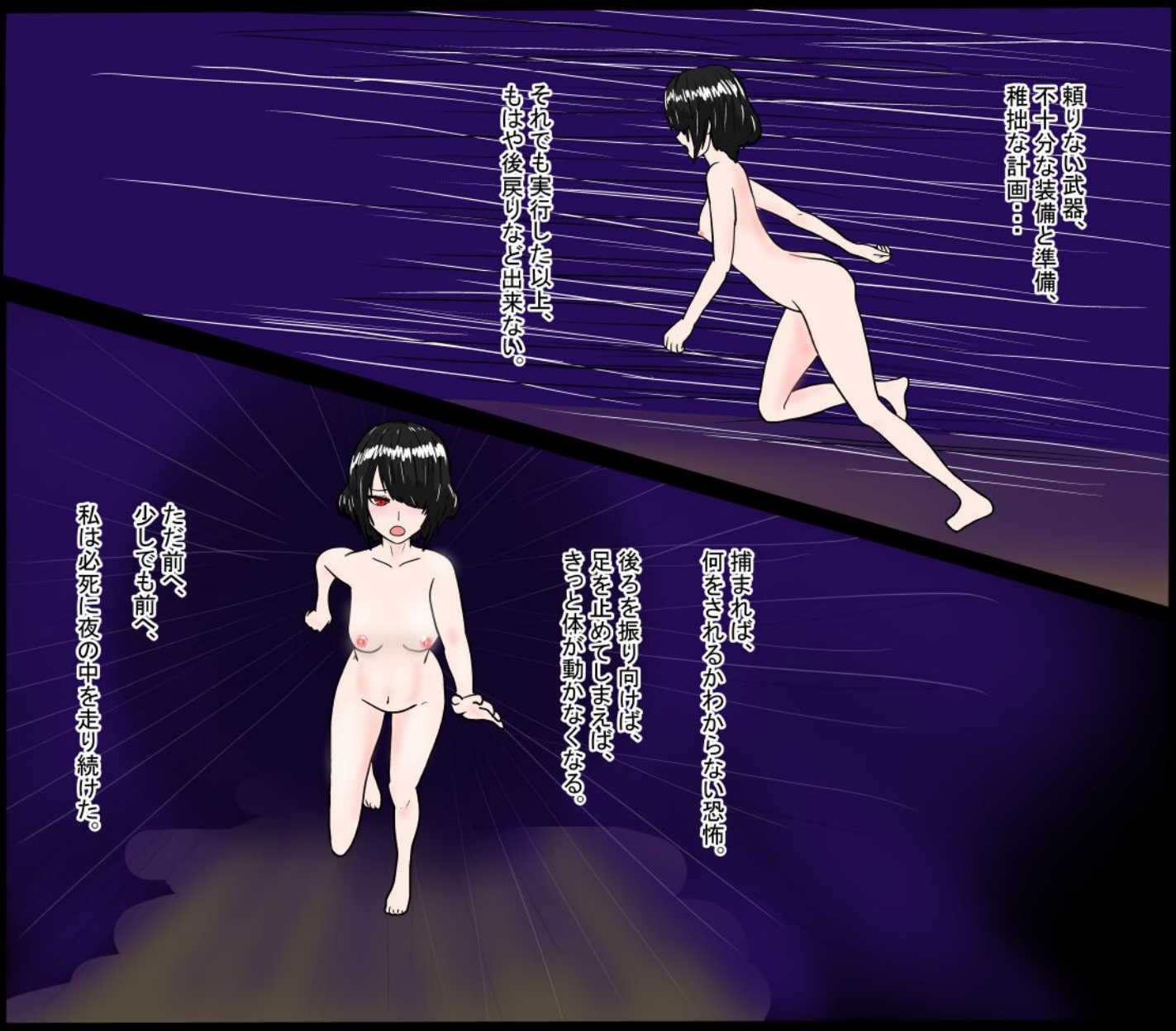

いったいどのタイミングで孕んだのかは定かではない。
だが、凌辱が始まってから2か月たつ頃には、
私の胎の中では魔物の仔が大きく育っていた。
ずいぶん大きくなったねぇ…
元気ないい子を産んでくれよ…
あっ
はっ
はっ
あっはっ
はっ
ベロ…
チラ
コサ
サワサワ
コサ
ジュプ
ヌプヌプ
ズチョ
グチュ
ズチョ


私が初めて産んだ子供は
単眼、10本足の異形。
しかし魔女の血を引くことを示す
鮮やかな緋色の瞳…
ズルリ…
キーキー
不思議な…
とても不思議な
ことではあるが…
私は無理やりに
孕まされたこの醜い
異形の仔に対し…
確かに愛しさを感じていたのだ。
私が産んだ、私の血を引く、
私の子供…
キー
キー
キー
私はこの子を愛し、育てる。
その時の私は…
確かにそう思ったのだ。
だが…
うーむ…
こいつは失敗だなぁ…
キー!!
キー!
ま、
待って!
やめて!!
ギー!
ギー!!


出来損ないは
味もいまいちだな。
ポリガリ
メキ
パキ
メキゴリ
ポタ
今度はもっと良い子を
産んでくれよ。


魔物に屈服し、
諦めに支配されていた私の心に、
その時、
別の感情が沸き上がった。
怒り
憎しみ
嫌悪
そして復讐・・・


燃え上がった感情は
私が生き抜くための力になった。
表面上は従順さを装い、
むしろ積極的に魔物に奉仕した。
3人目を出産したころには、
私に対する物理的束縛は
確実に緩んでいた。
武器を入手し、
それを与えられた個室に隠した。
周囲の目を盗んで
脱出のための道具を整えた。
そしてある夜…
私は脱出計画を実行に移した。


頼りない武器、
不十分な装備と準備、
稚拙な計画・・・
それでも実行した以上、
もはや後戻りなど出来ない。
捕まれば、
何をされるかわからない恐怖。
後ろを振り向けば、
足を止めてしまえば、
きっと体が動かなくなる。
ただ前へ、
少しでも前へ、
私は必死に夜の中を走り続けた。


おい！
なんだ！
どうしたの？

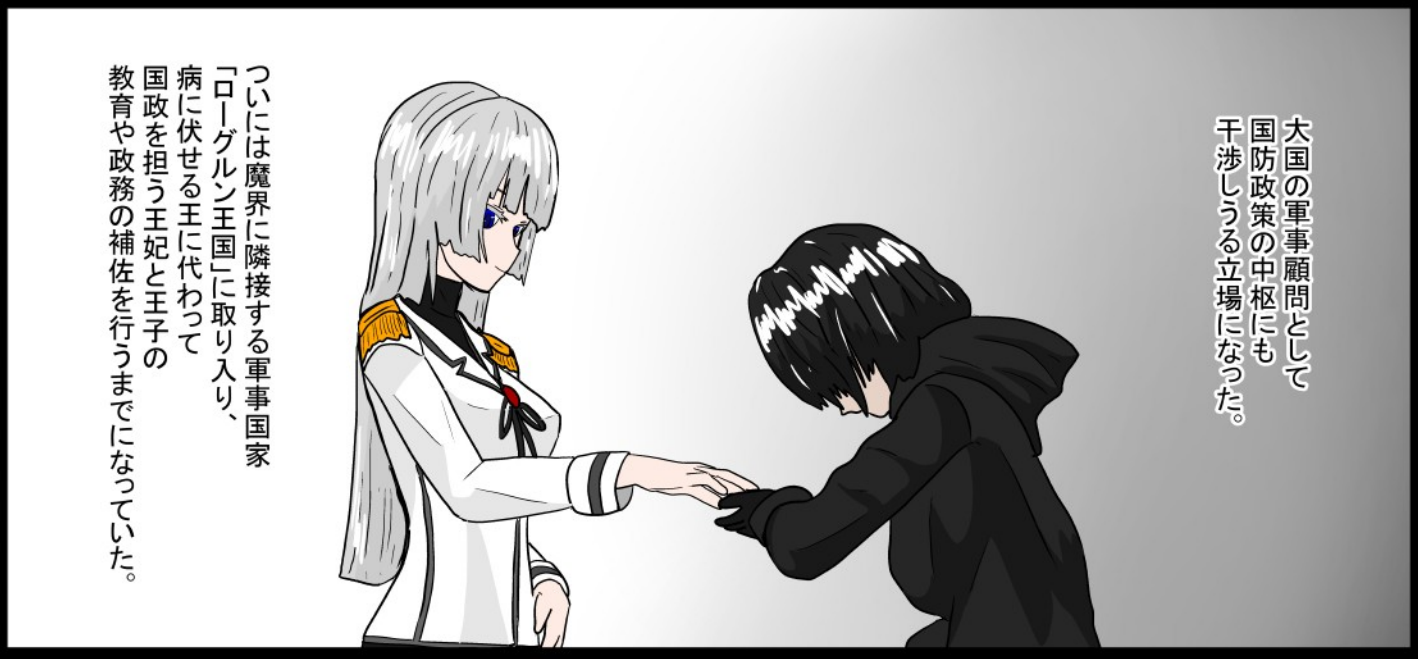

私は賭けに勝った。
魔界を探索中の
冒険者パーティーに救出された。
彼らのおかげで
私は人間世界に戻ることができたのだ。


母が残してくれた
「魔女の血」は、
人間世界に戻った私を
大いに助けてくれた。

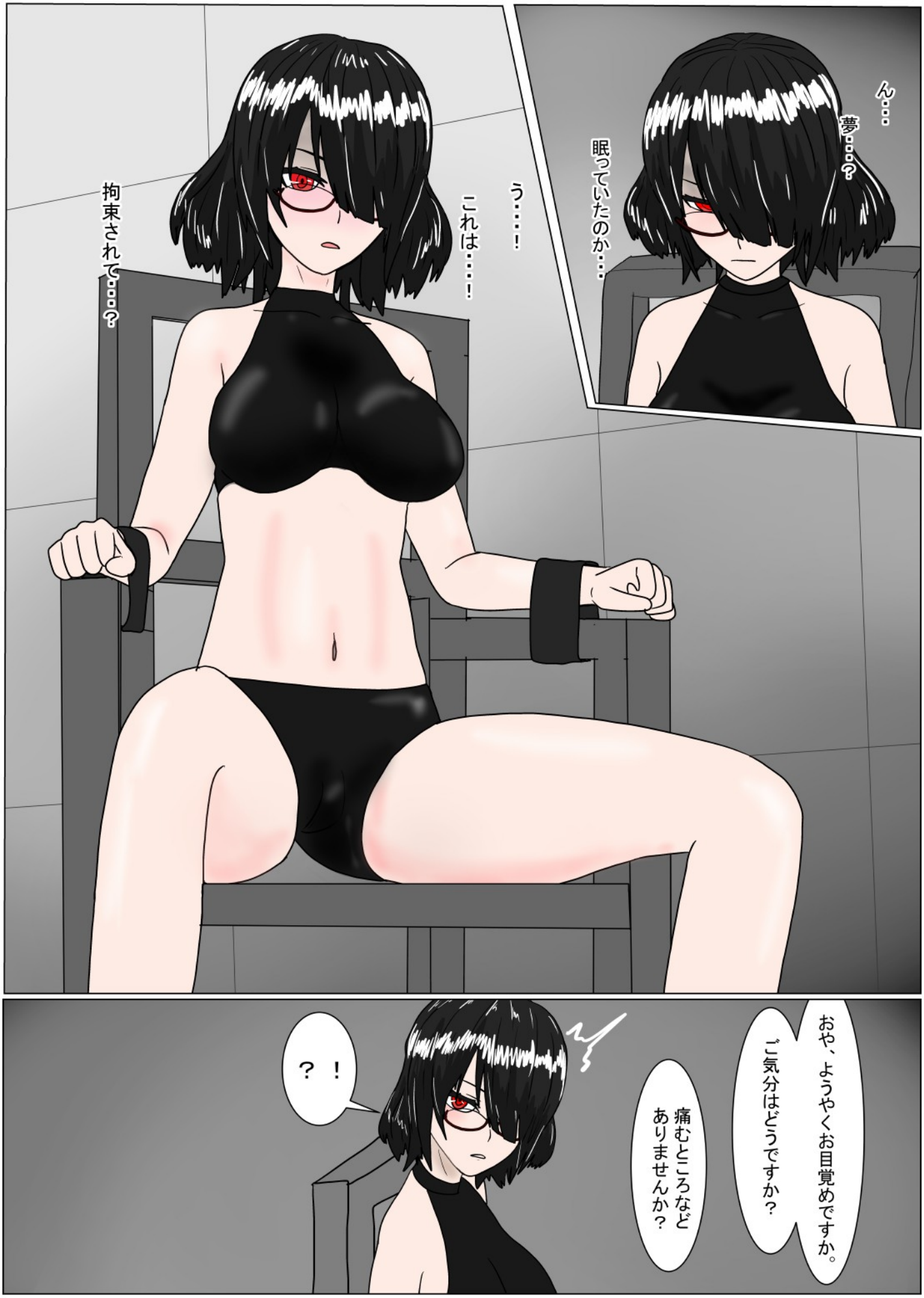

古い親戚を頼って
勉強を続け、
魔術の知識を身につけ、
実践能力を鍛えていった。

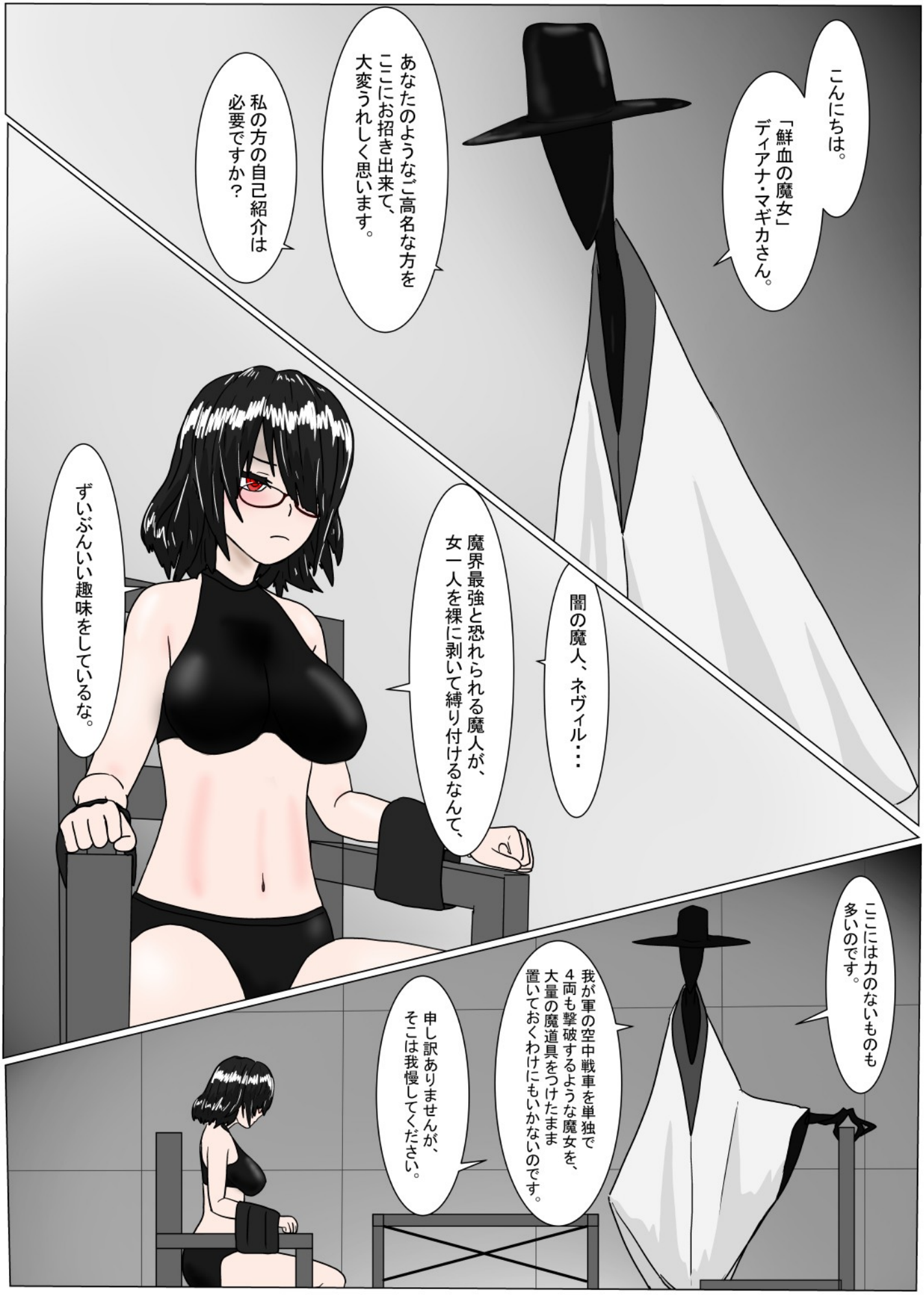

そして魔族と戦うため、
反魔族を掲げる秘密結社「星棒社」の一員となった。

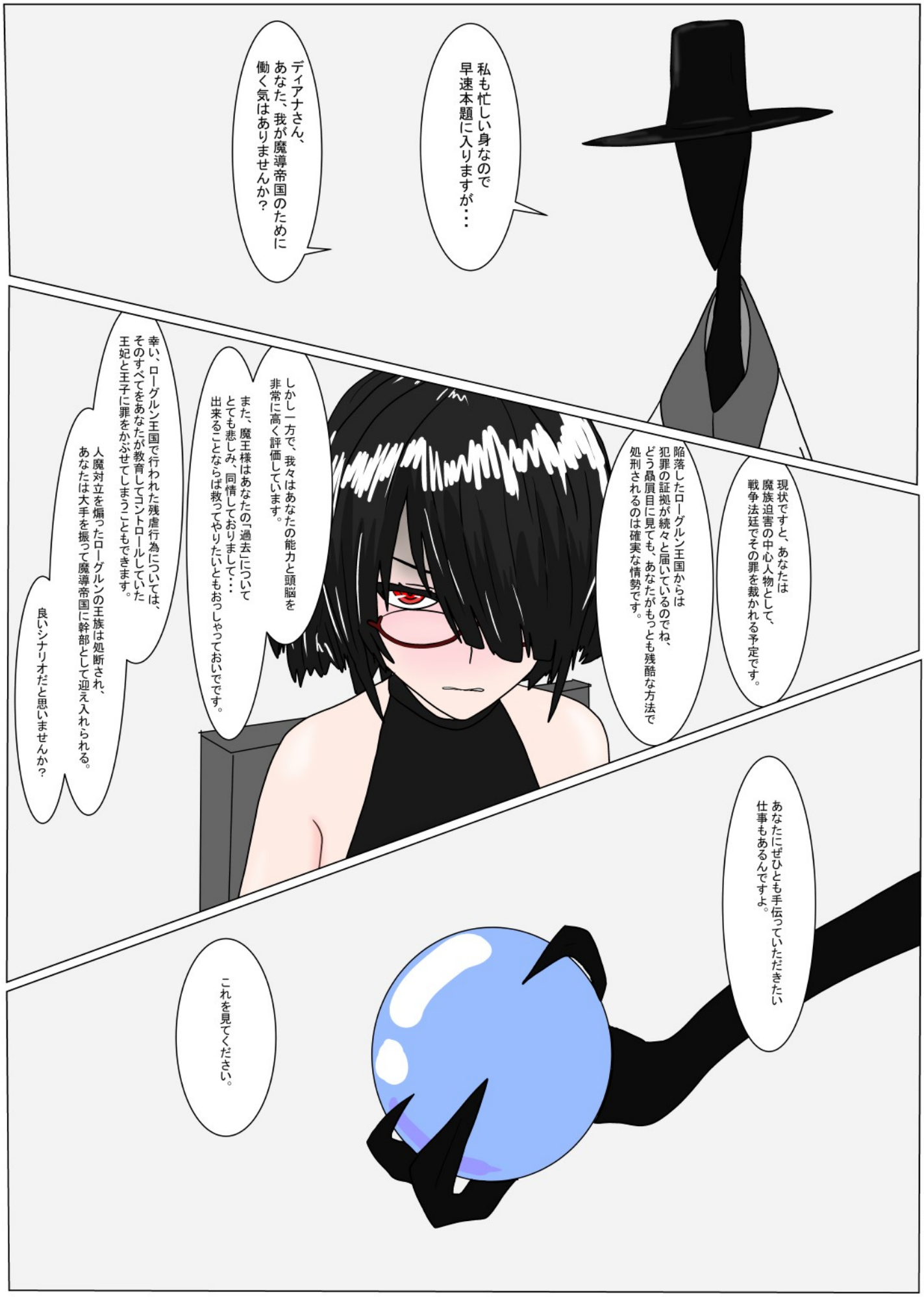

星棒社では魔族排撃の急先鋒として
多数の戦闘要員をまとめる幹部にまで上り詰め、

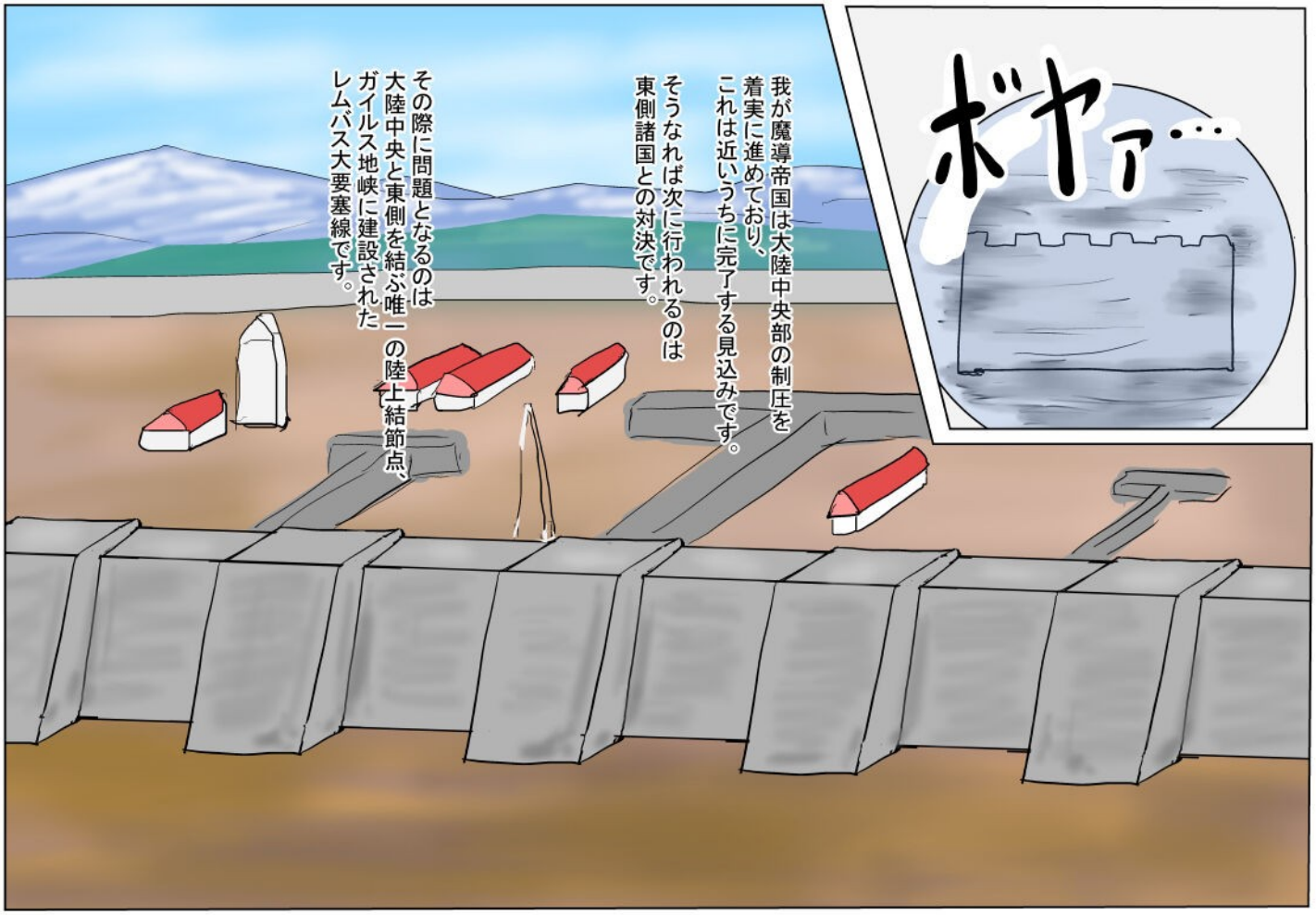

大国の軍事顧問として
国防政策の中枢にも
干渉しうる立場になった。
ついには魔界に隣接する軍事国家
「ローグルン王国」に取り入り、
病に伏せる王に代わって
国政を担う王妃と王子の
教育や政務の補佐を行うまでになっていた。

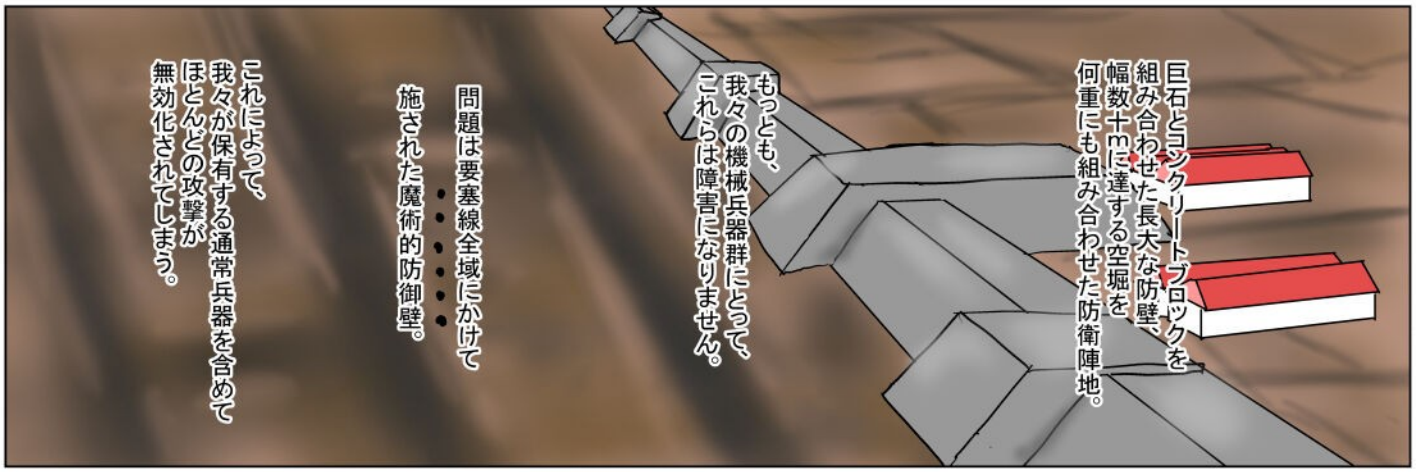

魔族殲滅という目標のために、
あらゆるものを利用して
自身の魔力と権力を高め、
邪魔するものは
魔族、人間を問わず血祭りにあげた。
いつしか私は、敵対者たちからは
「鮮血の魔女」の異名で恐れられる
強大な魔女になっていた。
私は、私の家族と、子供たちの命を踏みにじった
魔族たちへの復讐を、確実に前進させていった。


ん…
夢…？
眠っていたのか…
う…！
これは…！
拘束されて…？
おや、ようやくお目覚めですか。
ご気分はどうですか？
痛むところなどありませんか？
？！


こんにちは。
「鮮血の魔女」
ディアナ・マギカさん。
あなたのようなご高名な方を
ここにお招き出来て、
大変うれしく思います。
私の方の自己紹介は
必要ですか？
闇の魔人、ネヴィル・・・
魔界最強と恐れられる魔人が、
女一人を裸に剥いて縛り付けるなんて、
ずいぶんいい趣味をしているな。
ここには力のないものも
多いのです。
我が軍の空中戦車を単独で
4両も撃破するような魔女を、
大量の魔道具をつけたまま
置いておくわけにもいかないのです。
申し訳ありませんが、
そこは我慢してください。

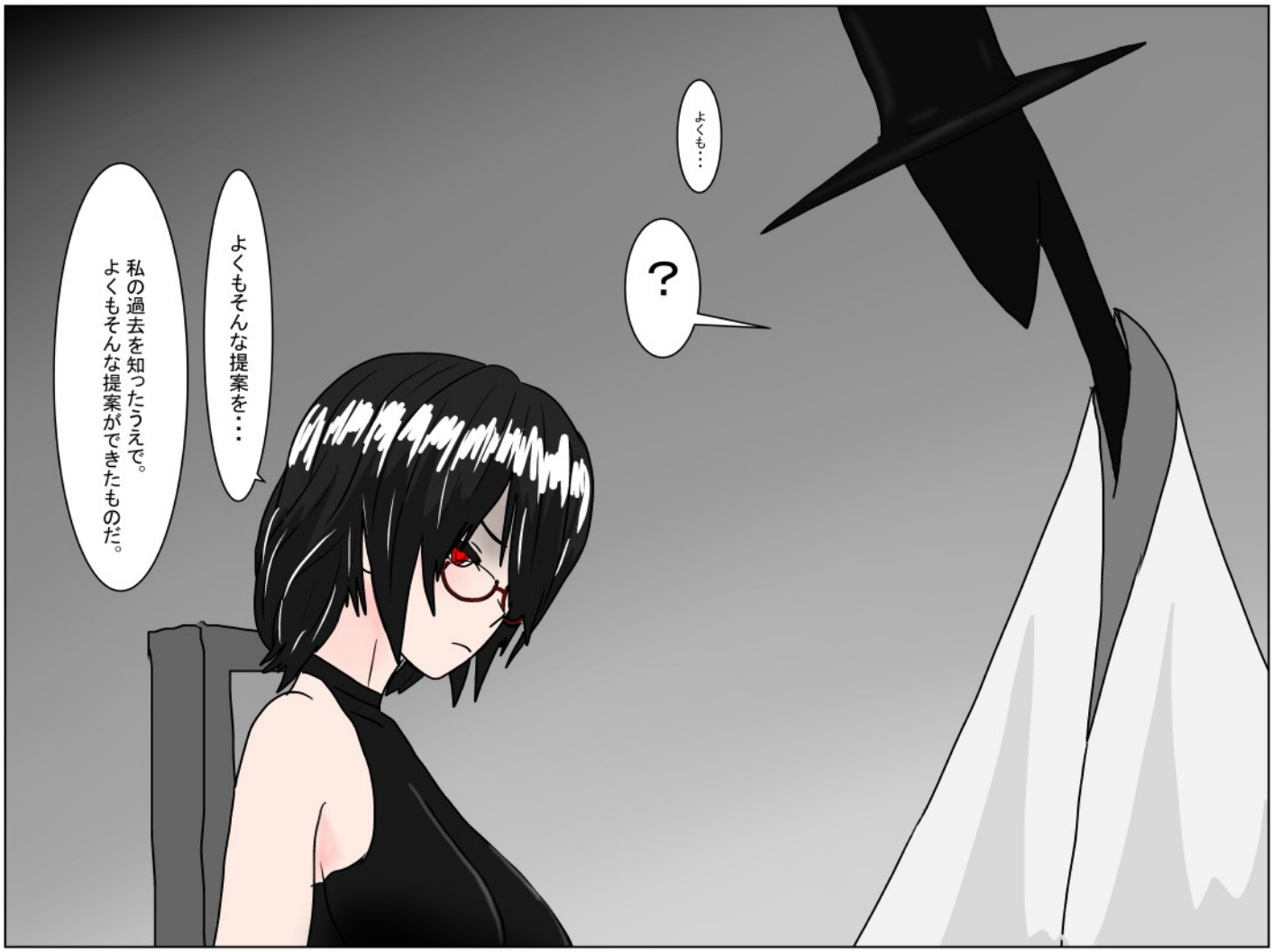

私も忙しい身なので
早速本題に入りますが・・・
ディアナさん、
あなた、我が魔導帝国のために
働く気はありませんか？
現状ですと、あなたは
魔族迫害の中心人物として、
戦争法廷でその罪を裁かれる予定です。
陥落したローグルン王国からは
犯罪の証拠が続々と届いているのでね、
どう贔屓目に見ても、あなたがもっとも残酷な方法で
処刑されるのは確実な情勢です。
しかし一方で、我々はあなたの能力と頭脳を
非常に高く評価しています。
また、魔王様はあなたの「過去」について
とても悲しみ、同情しておりまして・・・
出来ることならば救ってやりたいともおっしゃっておいでです。
幸い、ローグルン王国で行われた残虐行為については、
そのすべてをあなたが教育してコントロールしていた
王妃と王子に罪をかぶせてしまうこともできます。
人魔対立を煽ったローグルンの王族は処断され、
あなたは大手を振って魔導帝国に幹部として迎え入れられる。
良いシナリオだと思いませんか？
あなたにぜひとも手伝っていただきたい
仕事もあるんですよ。
これを見てください。


ボヤァ…
我が魔導帝国は大陸中央部の制圧を
着実に進めており、
これは近いうちに完了する見込みです。
そうなれば次に行われるのは
東側諸国との対決です。
その際に問題となるのは
大陸中央と東側を結ぶ唯一の陸上結節点、
ガイルス地峡に建設された
レムバス大要塞線です。

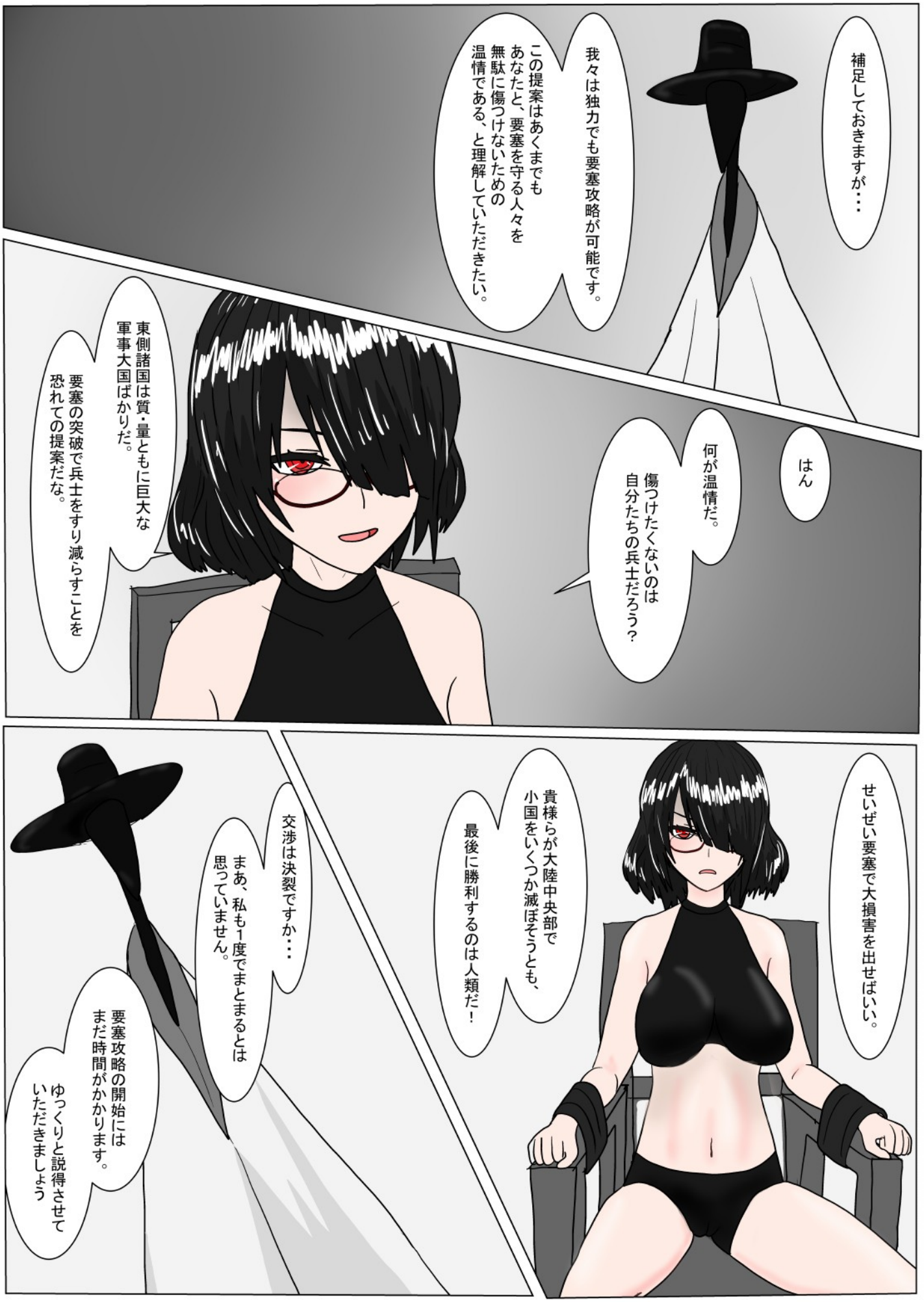

巨石とコンクリートブロックを
組み合わせた長大な防壁、
幅数十mに達する空堀を
何重にも組み合わせた防衛陣地。
もっとも、
我々の機械兵器群にとって、
これらは障害になりません。
問題は要塞線全域にかけて
施された魔術的防御壁。
これによって、
我々が保有する通常兵器を含めて
ほとんどの攻撃が
無効化されてしまう。


あなたが設計し、
設置した、
強力無比の防御結界です。


結界の解除に協力していただけませんか？
協力していただけるなら、
魔導帝国があなたの地位を保証します。


よくも…
？
よくもそんな提案を…
私の過去を知ったうえで。
よくもそんな提案ができたものだ。


私はお前たち魔族が
大っ嫌いだ。
心の底から憎んでいる。
例えこの身が八つ裂きにされようと、
いかなる辱めを受けようと、
私が貴様らに協力することは
絶対にありえない！


補足しておきますが・・・
我々は独力でも要塞攻略が可能です。
この提案はあくまでも
あなたと、要塞を守る人々を
無駄に傷つけないための
温情である、と理解していただきたい。
はん
何が温情だ。
傷つけたくないのは
自分たちの兵士だろう？
東側諸国は質・量ともに巨大な
軍事大国ばかりだ。
要塞の突破で兵士をすり減らすことを
恐れての提案だな。
せいぜい要塞で大損害を出せばいい。
貴様らが大陸中央部で
小国をいくつか滅ぼそうとも、
最後に勝利するのは人類だ！
交渉は決裂ですか・・・
まあ、私も1度でまとまるとは
思っていません。
要塞攻略の開始には
まだ時間がかかります。
ゆっくりと説得させて
いただきましょう


これが説得か…
魔族が考えることはいつも同じで芸がないな。
それだけ有効な方法だということです。
大切な方です。しっかりお願いしますね。
はい。お任せを。


大丈夫だ…
この程度、どうってことない。
この程度なら、
私は十分に耐えられる…！
魔女様、
とってもいい匂いするなぁ…
いっぱいいじってあげますから、
いっぱい気持ちよくなってくださいね。
サワ
サワ
サワ
サワ
フニ
フニフニ
クリ
クリ
サワ
サワ
サワ
サワ


気持ち良くなるお薬を使ってあげましょうね。
ズル…
さあ、大きく息を吸い込んで…
コポ
コポ
コポ
プシュ!!
ふふふ、もうお漏らしですか？魔女様
ビクッ
ビクッ
ビクッ
…ニチャ


うっ
あっ
ふっ
あっ
ふっ
ゴッ
ゴッ
ゴッ
媚薬のお味はどうですか？
うっ
はっ
グチュ
グチュ
体中が素晴らしく敏感になっていますね。
優しく触られ続けるだけで、たまらなく気持ちいいでしょう？
ゾリ
ゾリ
ゾリ
ザリ
ザリ
チュプ
チュパ
グチュ
ニュリ
ヌリ
ヌリ


うっ
んっ…
くっ…勝手なことを…！
魔女様はお尻が大好きなんですか？
触手で擦ると愛液がダラダラ出てきますよ。
はあっ
グッポ
グチュ
ジッポ
グチュ


げぼっ
ごっ
ごぼっ
がっ
魔女様はあまり健康的な生活をしてなかったのかな？
ずいぶん体の中が汚いから、しっかり掃除してあげますね。
メリメリゴリゴリ


魔女様のお食事は
これからは僕の精液ですよ。
健康にもとっても良いので
しっかり飲んでくださいね。
ヌチョ
ドロ…
トロトロ

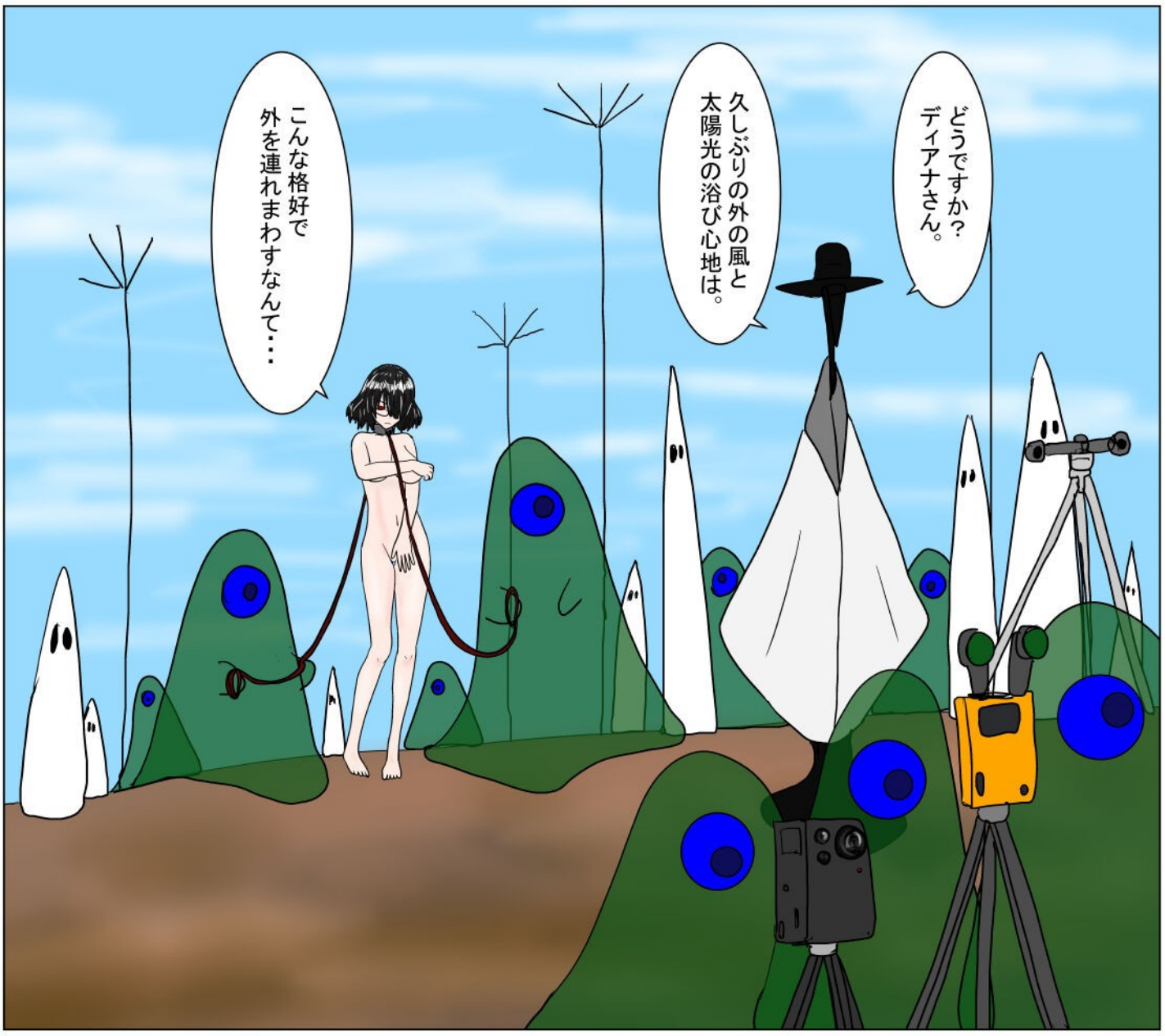

おいしいですか？
そんなにがっついてくれると
嬉しくなってしまいますね。
ニュ
ニュニュ
ズリ
ズリ
ペチャ
チュル
チュル
くそが…！
どれだけ不味くても
生き残るためならなんだってしてやる
グチュ
グチョ
グチョ
グチュ

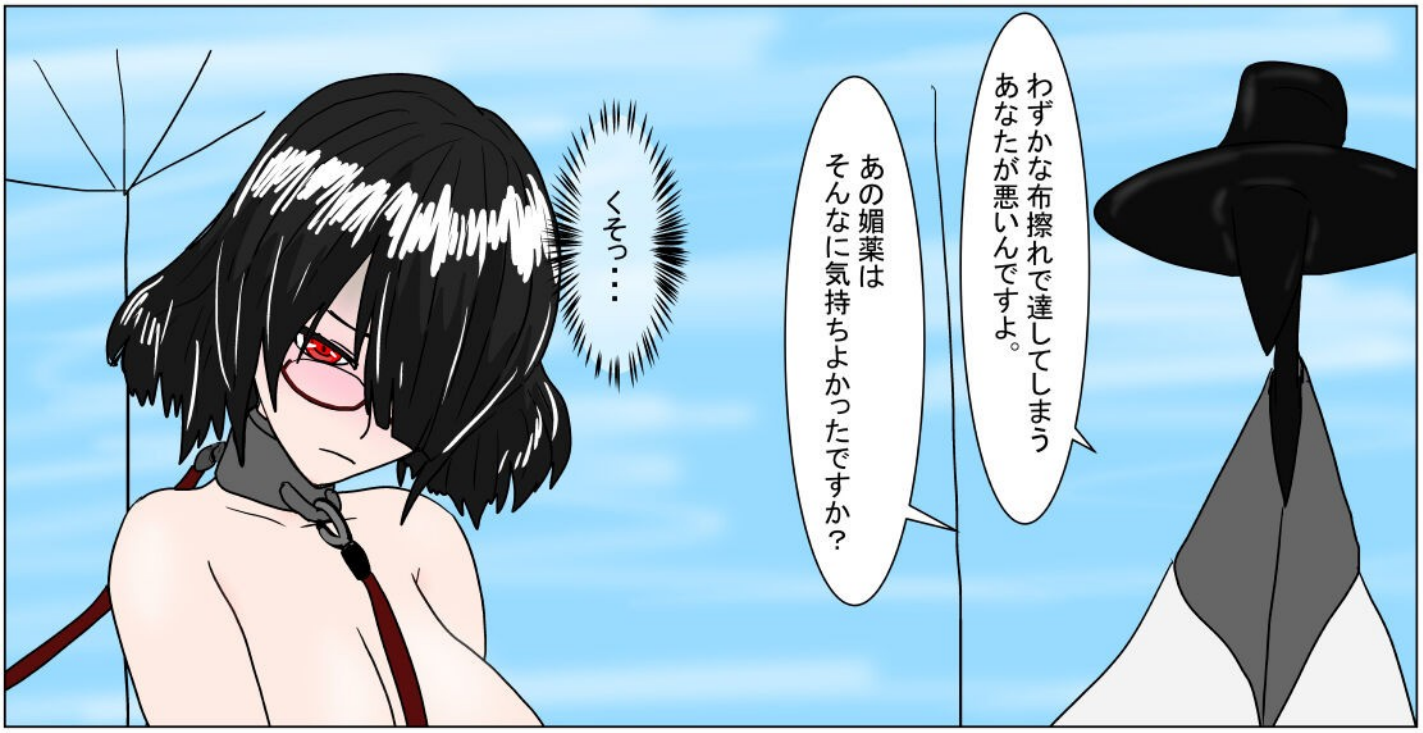

はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
はぁっ
大丈夫…
大丈夫だ…
この程度なら…
私は…

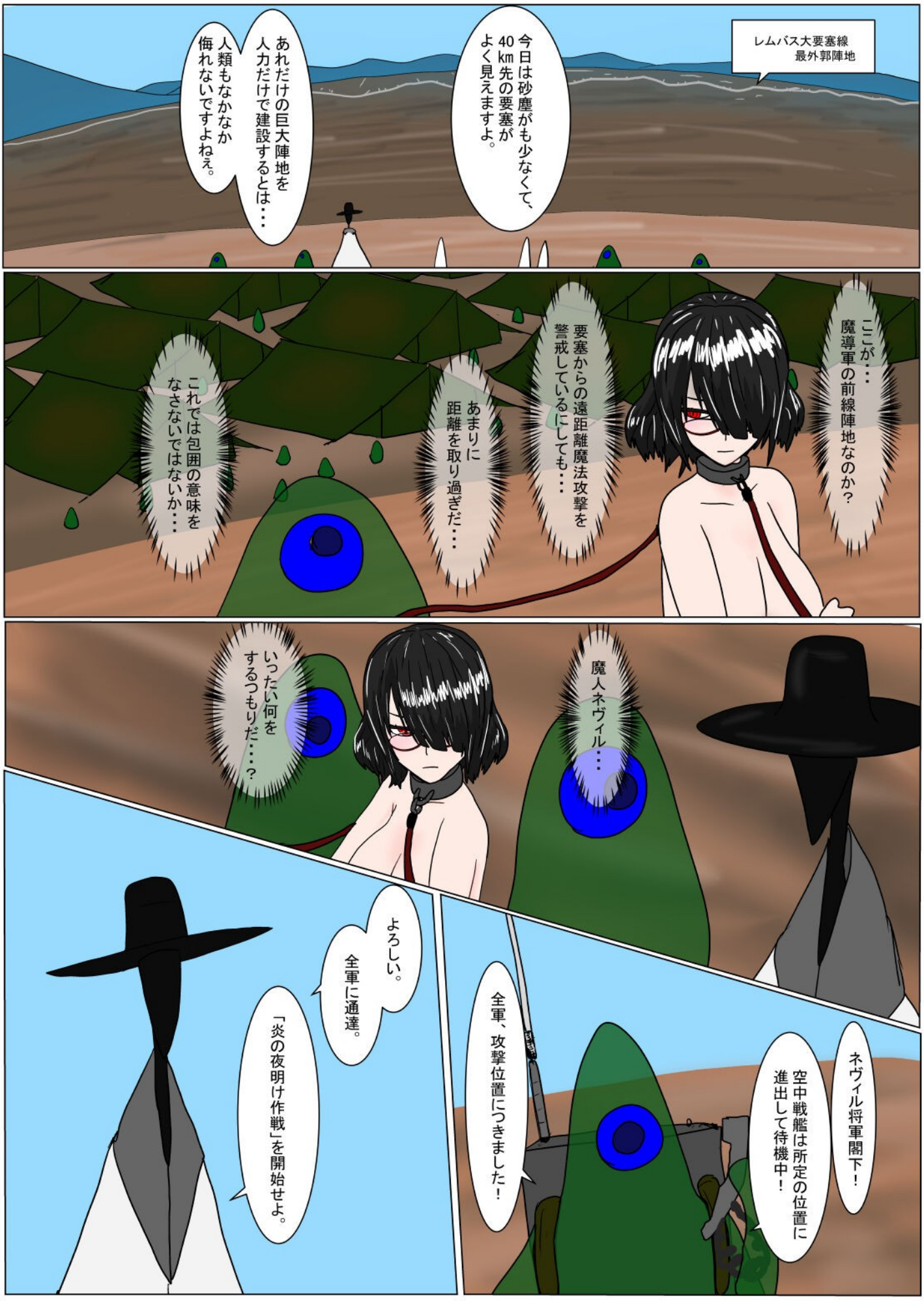

1か月後…
ふーっ…
ふしゅー…
ふー…
ふー…

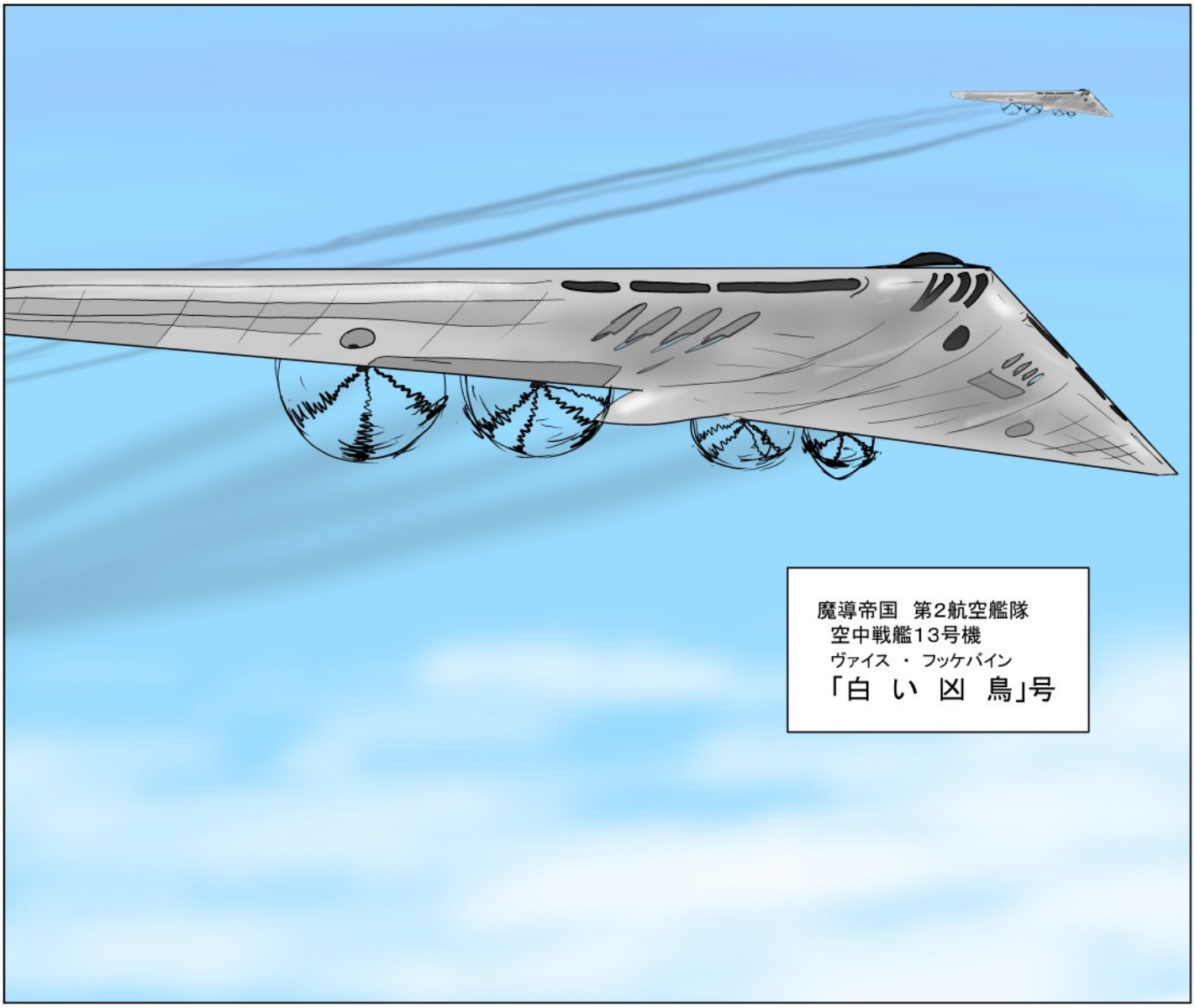

起きてください、ディアナさん。
ヌロ…
ズル…
様子を見に来てあげましたよ。
こっ
けはっ
ごぼっ

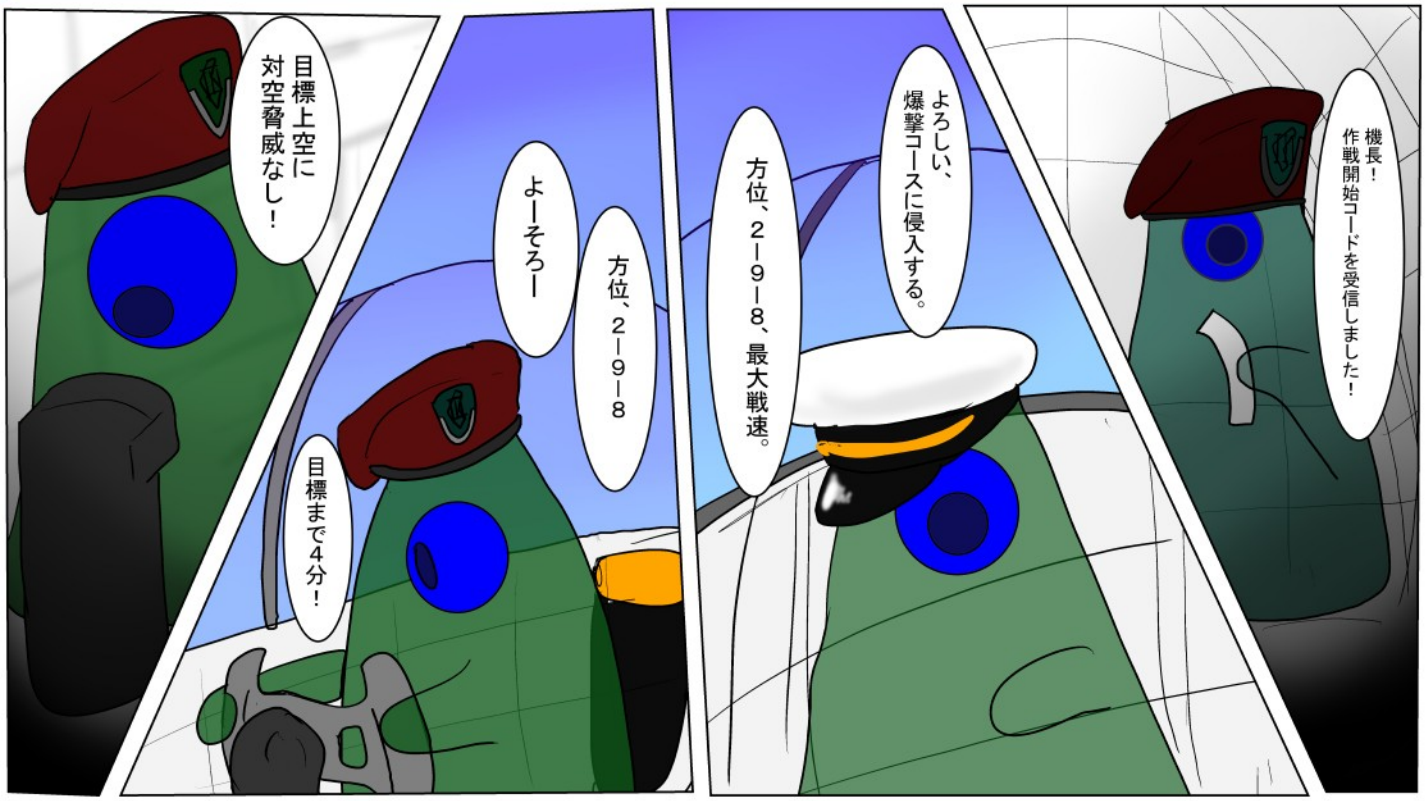

協力する気になって…
ふーっ
ふーっ
ふーっ
キーっ
…は、
いないようですね…。
ふー
ふーっ
まあ仕方ありませんか…
少し…
お出かけしましょうか。

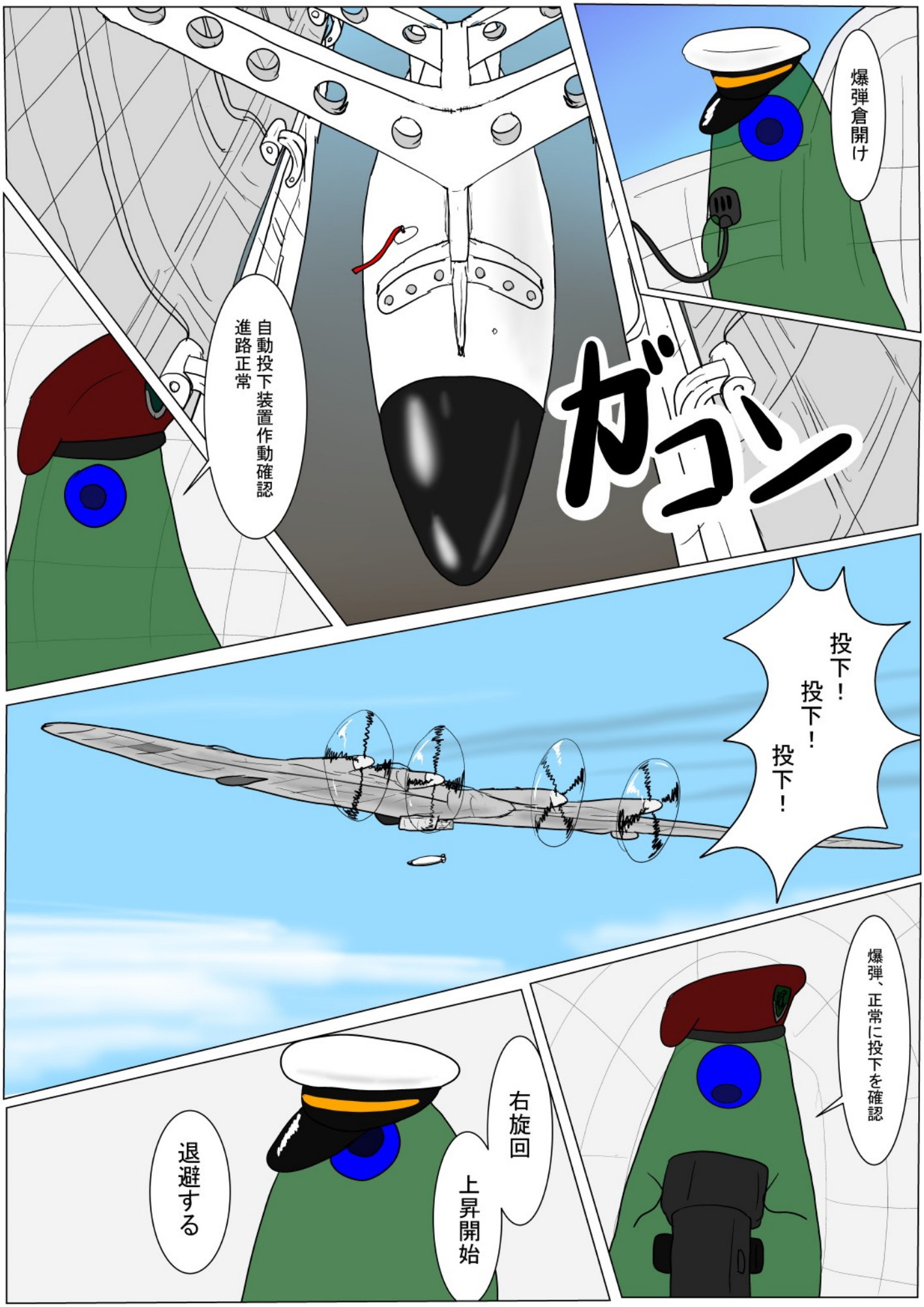

どうですか？
ディアナさん。
久しぶりの外の風と
太陽光の浴び心地は。
こんな格好で
外を連れまわすなんて・・・

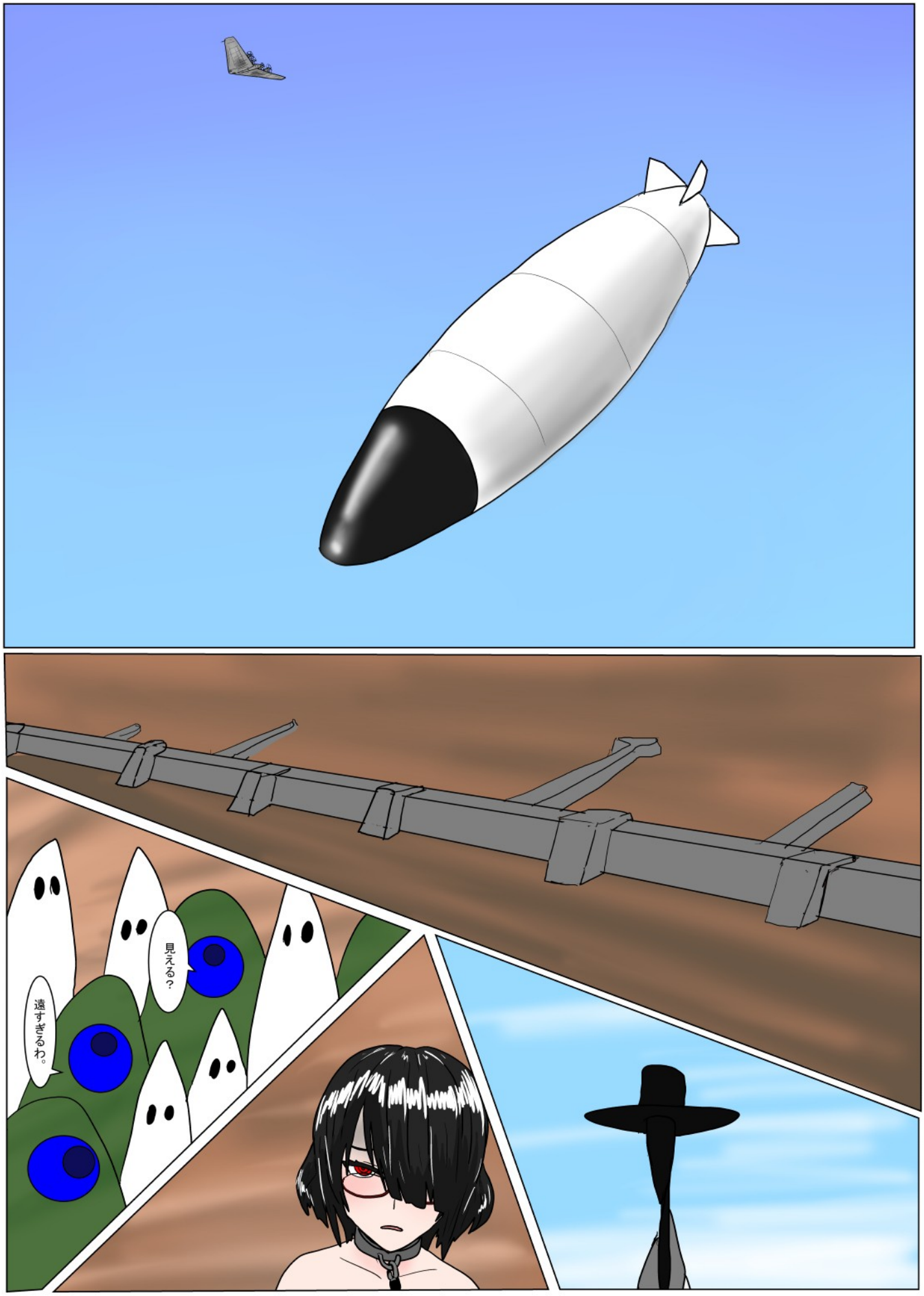

わずかな布擦れで達してしまう
あなたが悪いんですよ。
あの媚薬は
そんなに気持ちよかったですか？
くそっ・・・


レムバス大要塞線
最外郭陣地
今日は砂塵がも少なくて、
40㎞先の要塞が
よく見えますよ。
あれだけの巨大陣地を
人力だけで建設するとは…
人類もなかなか
侮れないですよねぇ。
ここが…
魔導軍の前線陣地なのか？
要塞からの遠距離魔法攻撃を
警戒しているにしても…
あまりに
距離を取り過ぎだ…
これでは包囲の意味を
なさないではないか…
魔人ネヴィル…
いったい何を
するつもりだ…？
ネヴィル将軍閣下！
空中戦艦は所定の位置に
進出して待機中！
全軍、攻撃位置につきました！
よろしい。
全軍に通達。
「炎の夜明け作戦」を開始せよ。


魔導帝国　第2航空艦隊
空中戦艦13号機
ヴァイス ・ フッケバイン
「白 い 凶 鳥」号

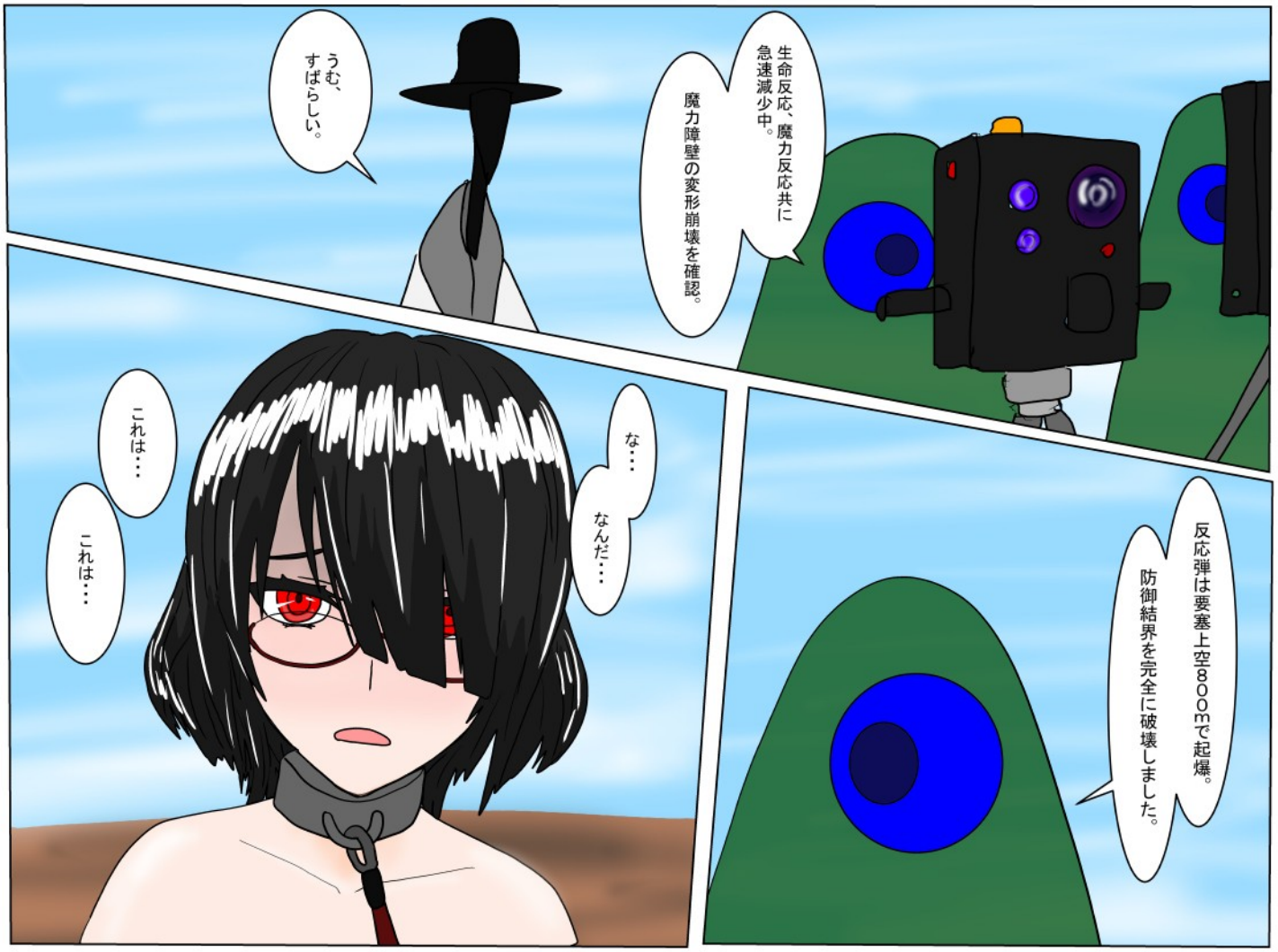

機長！
作戦開始コードを受信しました！
よろしい、
爆撃コースに侵入する。
方位、2－9－8、最大戦速。
方位、2－9－8
よーそろー
目標まで4分！
目標上空に
対空脅威なし！


爆弾倉開け
ガコン
自動投下装置作動確認
進路正常
投下！
投下！
投下！
爆弾、正常に投下を確認
右旋回
上昇開始
退避する

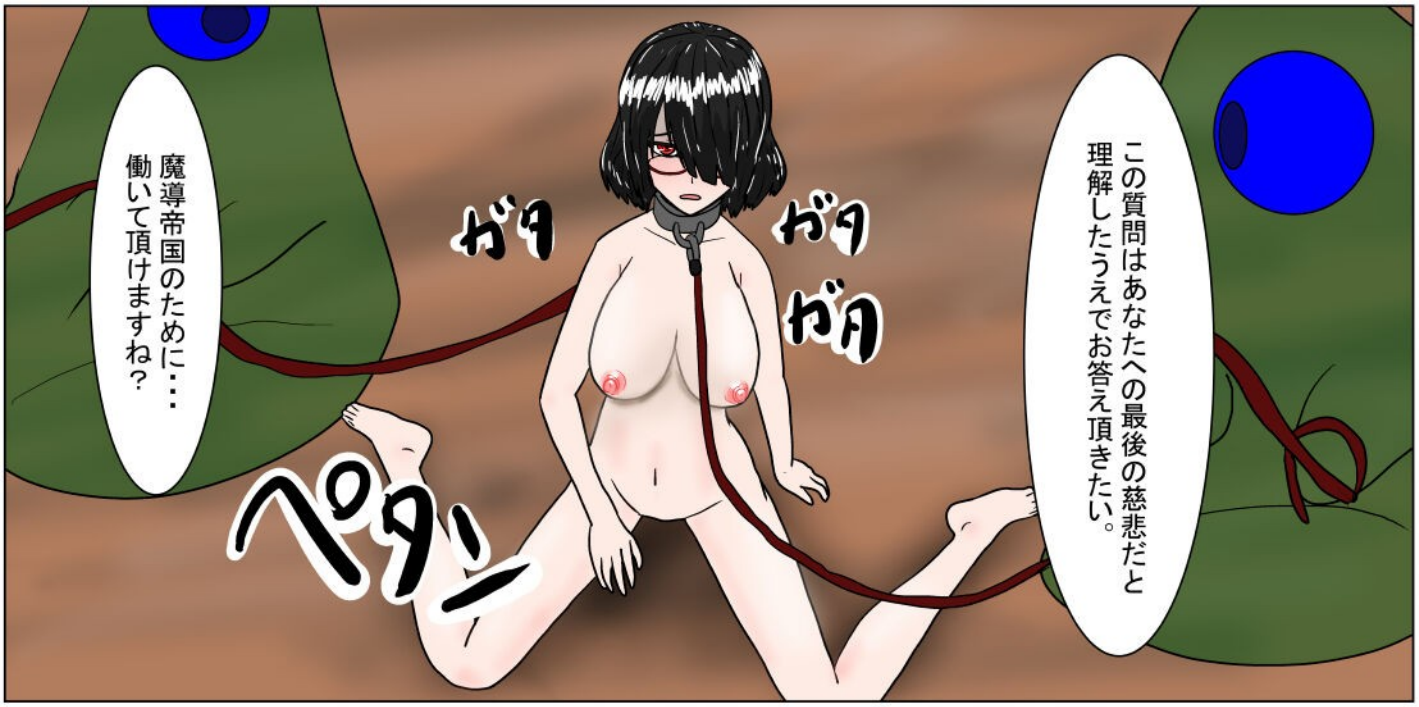

見える？
遠すぎるわ。

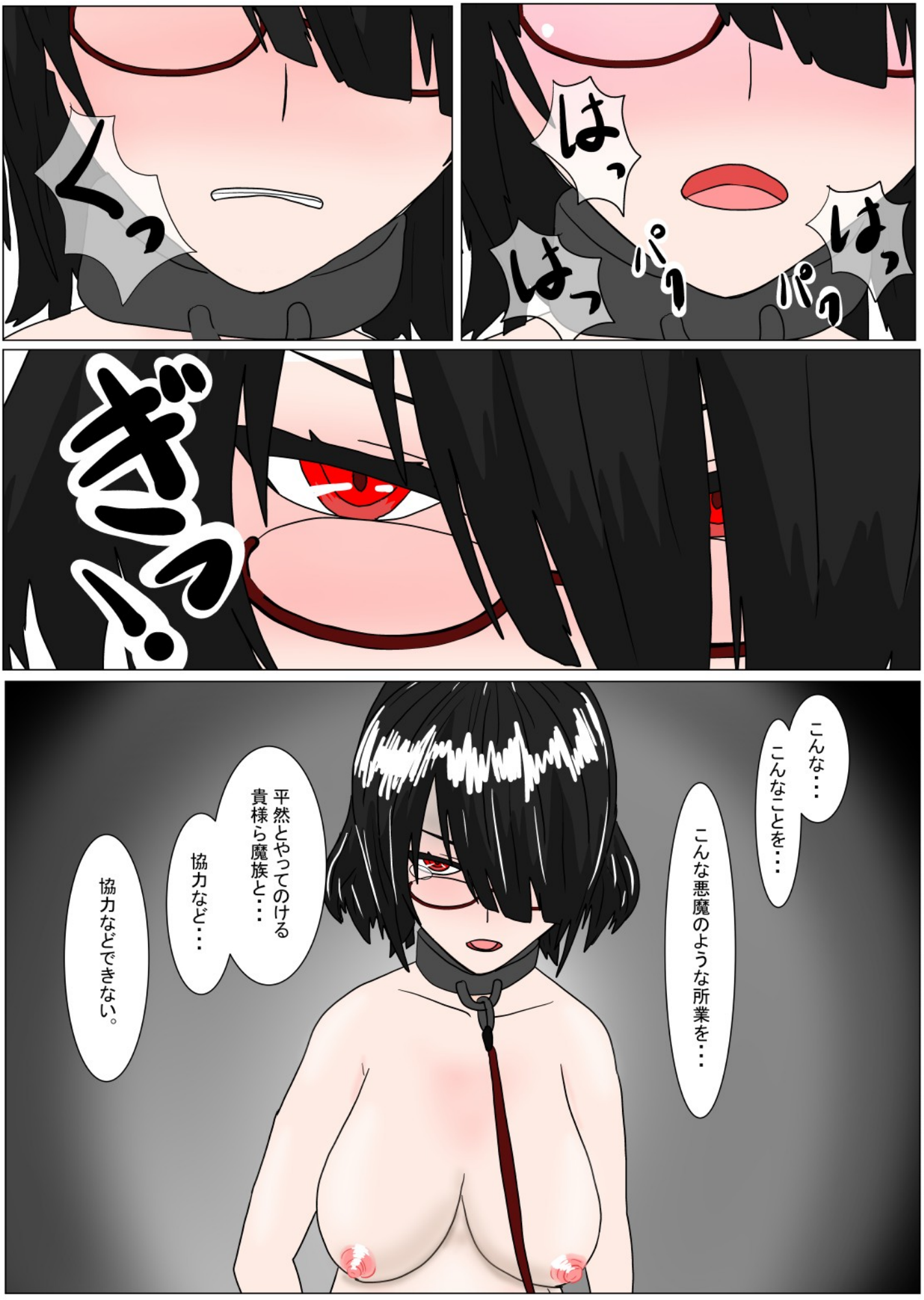

ピカッ




反応弾は要塞上空800mで起爆。
防御結界を完全に破壊しました。
生命反応、魔力反応共に急速減少中。
魔力障壁の変形崩壊を確認。
うむ、すばらしい。
な…
なんだ…
これは…
これは…


ゴオオオオオ・・・
さて、ディアナさん。
これで我々の力がどれほどのものか分ったでしょう。
あなたへの提案が、温情であるということも・・・
理解して頂けたかと思います。


この質問はあなたへの最後の慈悲だと理解したうえでお答え頂きたい。
魔導帝国のために・・・働いて頂けますね？
ガタ
ガタ
ガタ
ペタン


くっ
はっ
はっ
パク
パク
はっ
ぎっ
こんな…
こんなことを…
こんな悪魔のような所業を…
平然とやってのける
貴様ら魔族と…
協力など…
協力などできない。


悪魔のような所業・・ですか。
あなたの魔族への行為を差し置いてよく言えたものですね。
あなたの過去の事情を差し引いても・・・
あなたの行為は十分悪魔的ですよ。
残念ですが・・・
交渉はここまでですね。
彼女を処分場へ。
了解・・・
さようなら、ディアナさん。


はいはい、
早く歩いてねー
ここが君の新しい職場だよー。
自主的に帝国に協力できないメスは、
ここで強制的に働くんだよー。
グイッ
なんだ、
それが新しい苗床か？
ずいぶんと元気そうじゃないか。
ここに堕とされるようなメスは
もはやまともな性奴隷にも
なれないような、
廃棄処分一歩手前の
ゴミくずばかりだよ。
中々の美人さんじゃないか。
そんな元気な状態で
ここに放り込まれるなんて…
あんたいったい何をやらかしたんだ？


ま、何をしていたとしても関係ない。
これからは魔導帝国のために魔物を産み続けるだけなんだからね…
ズルリ
ブルン
ウネ
ウニュ


うっ
うっ
うっ
く
うっ
く…！
腹の中を…
触手が這い上がってくる…！
ゴチュ
ゴチュ
ゴチュ
うっ
サワ
サワ
サワ
うっ
うっ
ゾワ
ゾワ
ゾワ
ゾワ
ゾワ
ゾワ
また…
媚薬か…！
ゾワ
ザワ
ワチュ
ワチュ
ザワ
ザワ
ワチュ
ズッ
ゴッ
ゾルッ
げぼっ
がっ
ゾルッ
壊れる…
壊されてしまう…！


さて…
体の開発はこのくらいでいいか。
そろそろ孕ませてあげようね。
んーっ！んーっ！
ズル…
なんだ、随分と使い込まれているな。
これなら遠慮はいらないか。
ビュルルル
ジュポ
ジュポ
ブポ
この触手を初めてで
すんなり受け入れられるなんて、
随分と丁寧に
開発されているようだね。
うっ
ぐっ
うぅ

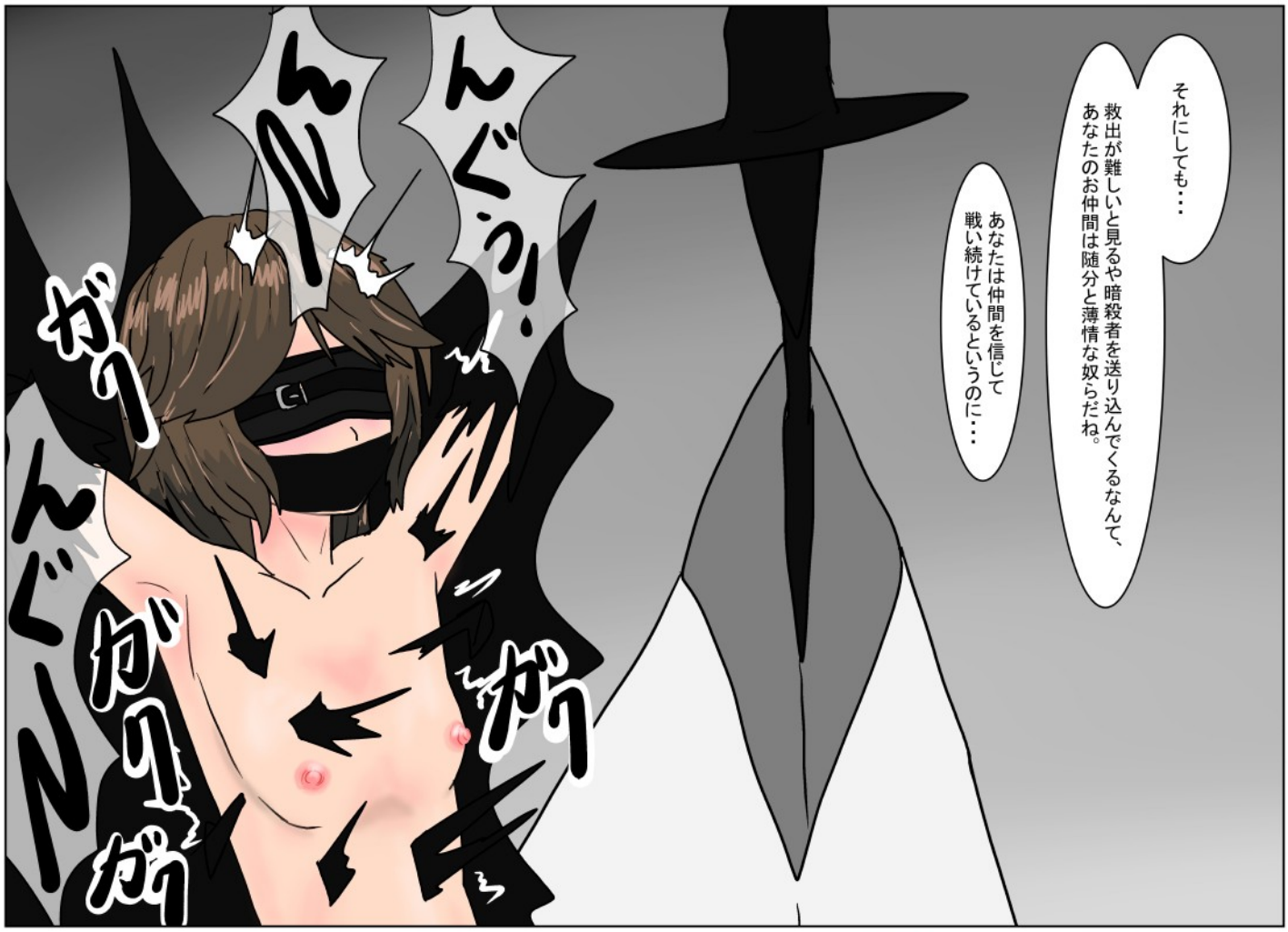

2か月後…
こぶー
ごぶっ
ごぼっ
ふふふ…
大きくていい子が育ったじゃないか…
もう生まれるかな？
まだかかるかな？
さらに1週間後…
ぐっ
ズルリ…
うう…
がんばれ！
もう半分以上出てきているぞ！


いい子が産まれたね…
じゃあさっそく次を仕込もうか。
星捧社は必ず私の救出に動くはずだ…
意志を強く持って…
希望を失わなければ…
君を孕ませてみたい精液は、まだまだたくさんあるんだからね…
必ず…！

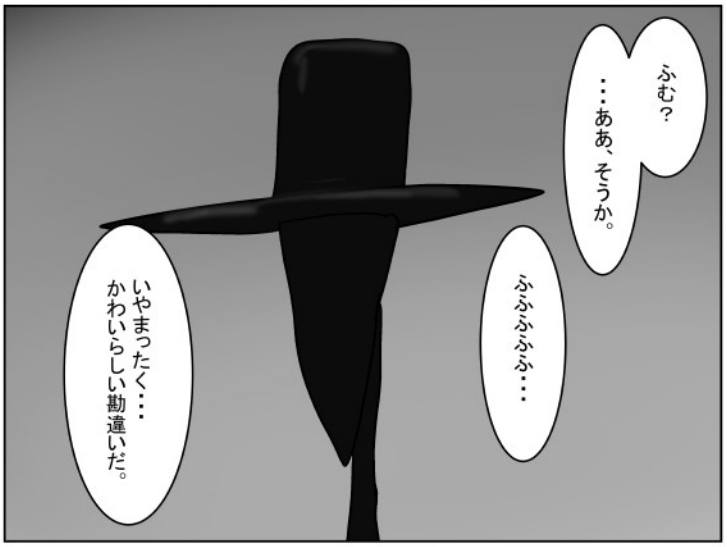

半年後…
やあ久しぶり。
おなかの子供は何人目かな？
魔人…
ネヴィル…


これは驚いた。
この部屋で半年も
意識を断ち続けるとはね…
普通なら数日で
思考力のない
廃人になってしまうんですよ。
あきらめず、
希望を持ち続けることが、
意識を保つ秘訣かな？
だが残念。
あなたの希望はすべて摘み取ってしまった。
…ウソだ。
嘘じゃない。
星捧社からの助けは来ないよ。
ほら、この通り。
これが
星捧社から送り込まれた
者たちの末路だ。

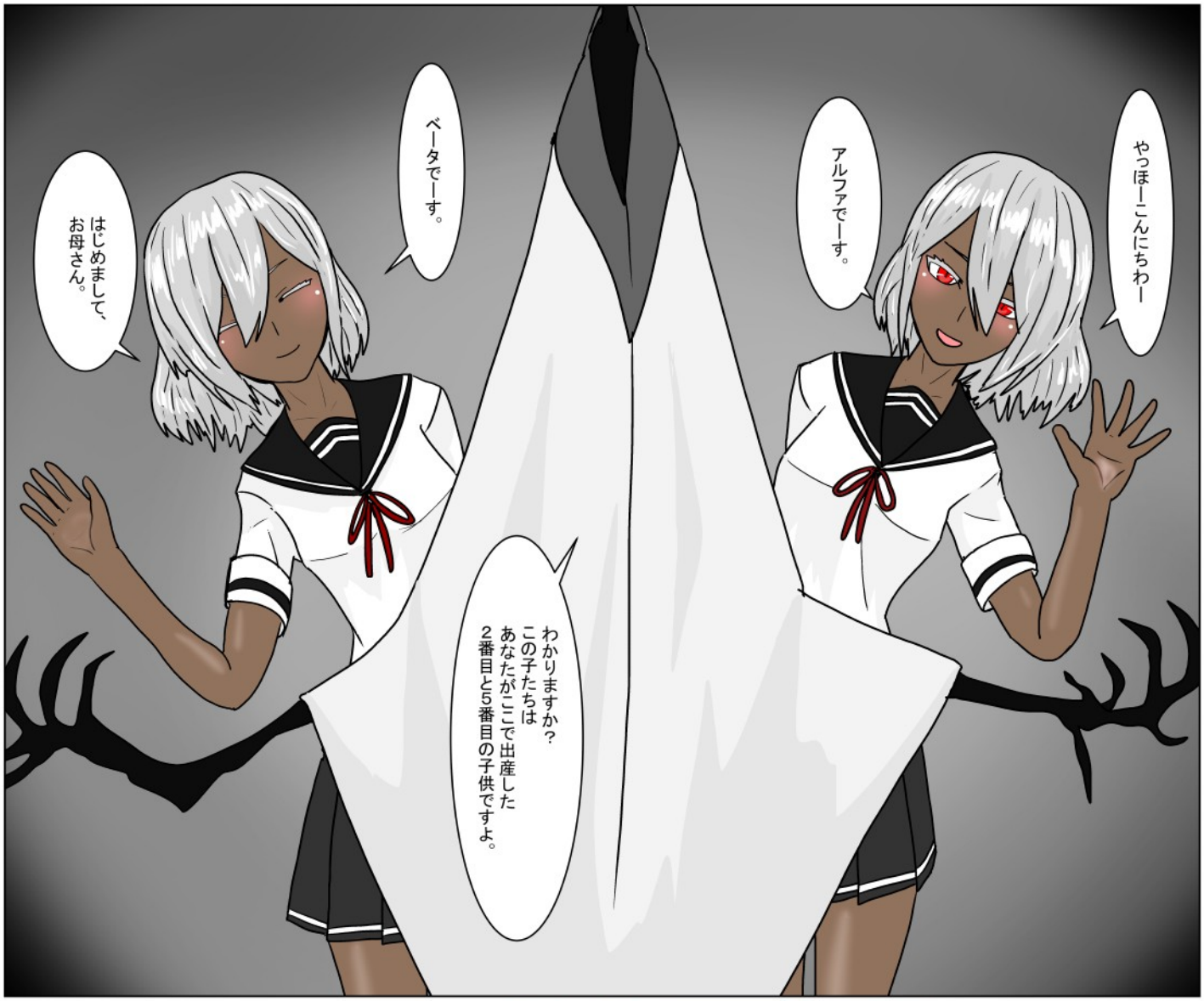

救出隊が2組、合計8名が失敗した後は、
4回にわたって暗殺者が来ていたよ。
もちろん全員をこうして私たちがもてなしているんだが・・・
尋問が終わったらここで苗床として頑張ってもらう予定だ。
ぐがっ!?
がりがりがりがりがあああ
ズク
ザク
ザク
いやぁ
もう
やめて
ゴリ
ゴリ
ゴリ


それにしても…
救出が難しいと見るや暗殺者を送り込んでくるなんて、
あなたのお仲間は随分と薄情な奴らだね。
あなたは仲間を信じて
戦い続けているというのに…
んぐっ!
んぐっ!
ガリ
ガリ
ガリ
ガリ


必要なら味方に切り捨てられるのも
覚悟の上だ。
どんな甘言を弄そうと、
私は人類を裏切らない。
私の知識も、頭脳も、
お前らには決して利用させない。


ふむ?
…ああ、そうか。
ふふふふ…
いやまったく…
かわいらしい勘違いだ。


スッ…
あなたの頭脳も、知識も、
我々はとっくに手に入れているよ。
アルファ、
ベータ、
お母さんに
顔を見せてあげなさい


やっほーこんにちわー
アルファでーす。
ベータでーす。
はじめまして、お母さん。
わかりますか？この子たちはあなたがここで出産した2番目と5番目の子供ですよ。


お母さんの知識も頭脳もとっても貴重なものだけど・・私たち2人とも、お母さんと同じものを持ってるんだよね～
そんなこと・・・
不可能だ・・・
不可能だよね、人間には。
でも精神を支配するネヴィルお父様には造作もないことだよ。

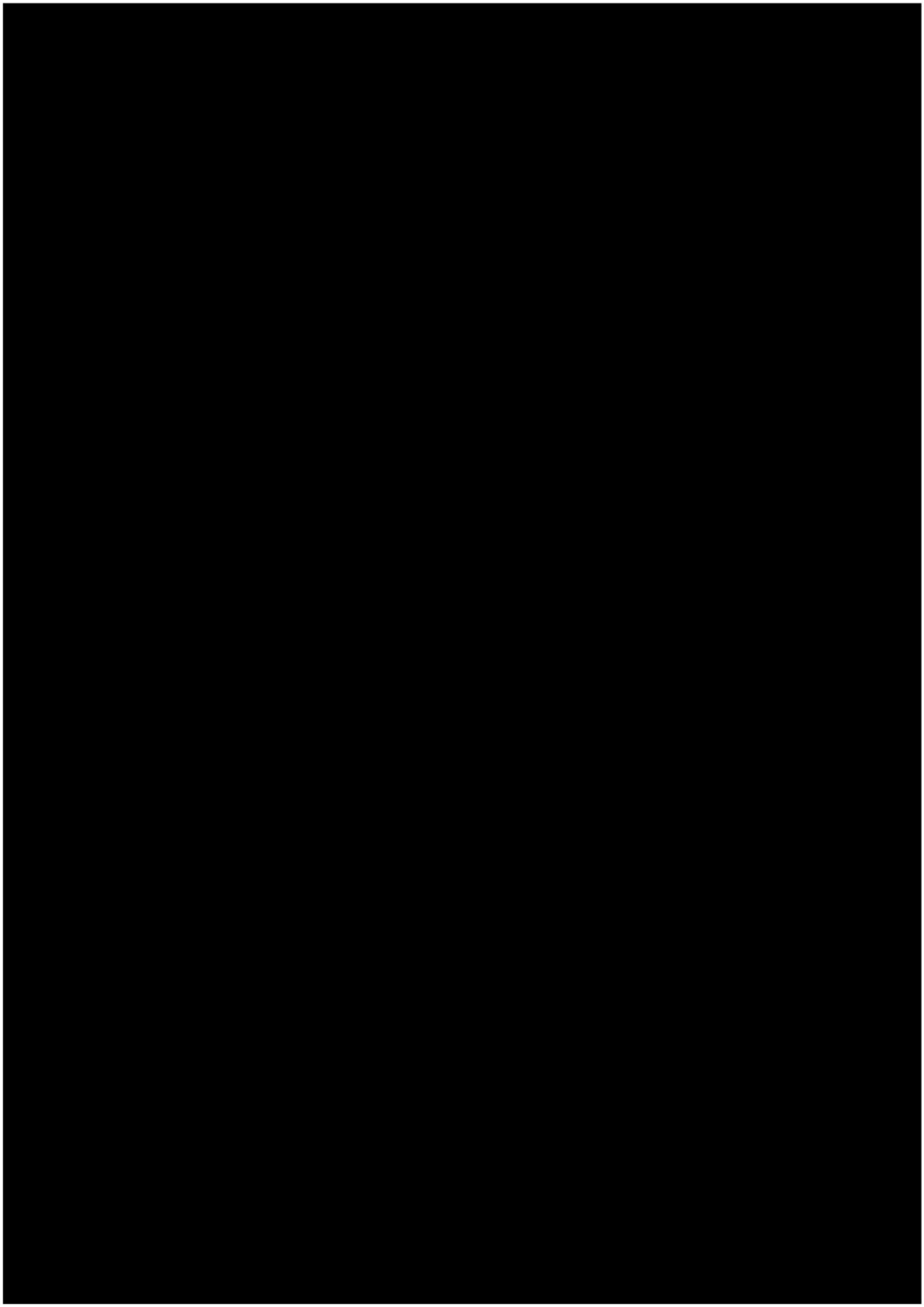

おっぱい♡
ぺろっ
つまりお母さんの脳みそって
もう特別でもなんでも無いんだよね～
ここで飼われてる
苗床のメス達とおんなじで、
子宮と卵巣以外、
完全に無価値

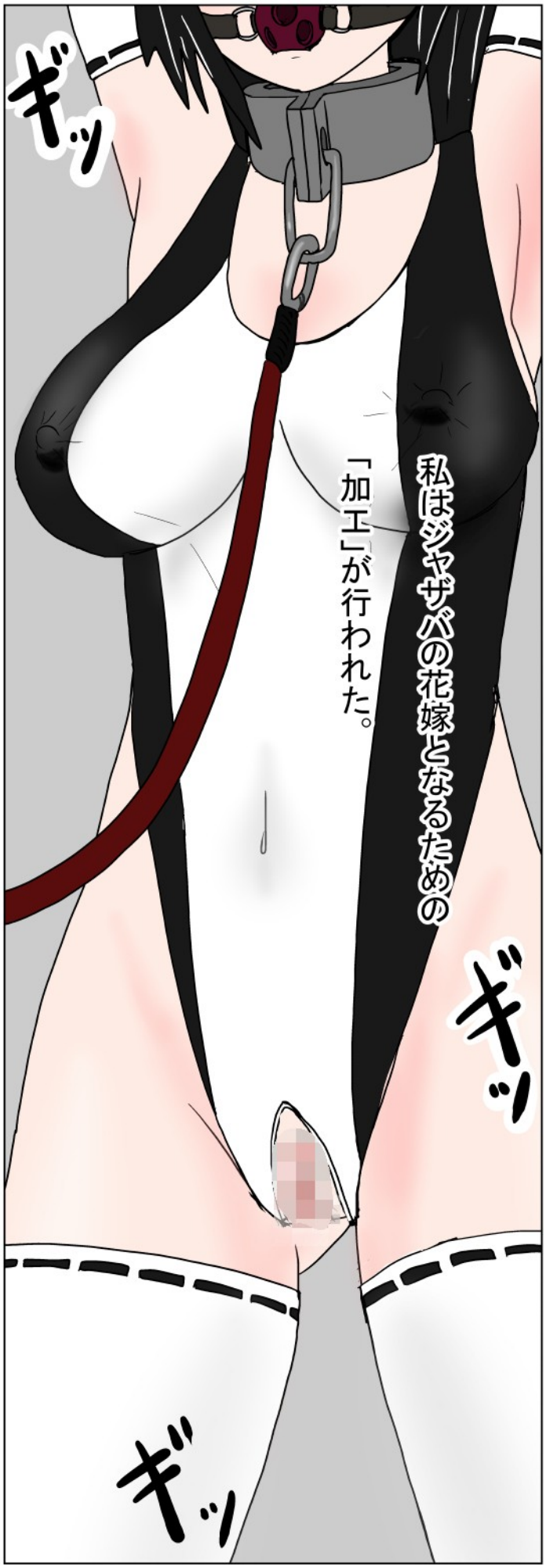

うそだ…
単なる脅しだ…
脅しだ…
まあ、我々にとっては無価値に近くとも…
あなたに大きな価値を見出している者もいるようだけどね。
彼を部屋に入れてくれ。
了解
まさか…
うそだ…
うそだ…！


また会えたね。
私のかわいい花嫁。

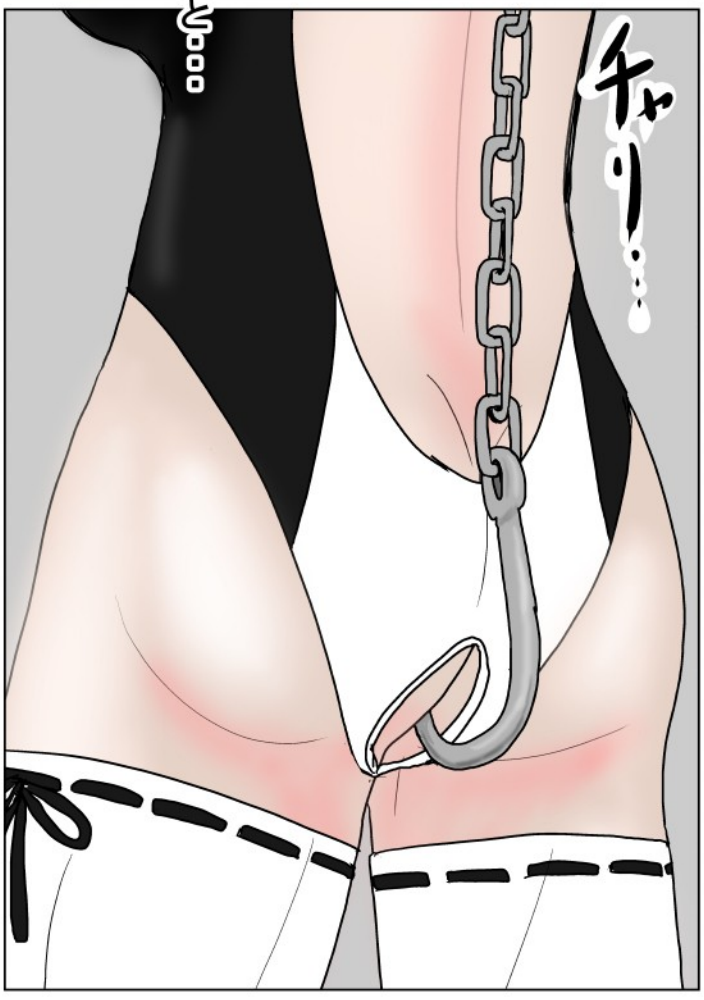

今おなかにいる子を出産し次第、
ディアナさんの身柄は
ジャザバ殿に譲渡されます。
待って…！
いや…
来ないで…
ひっ…

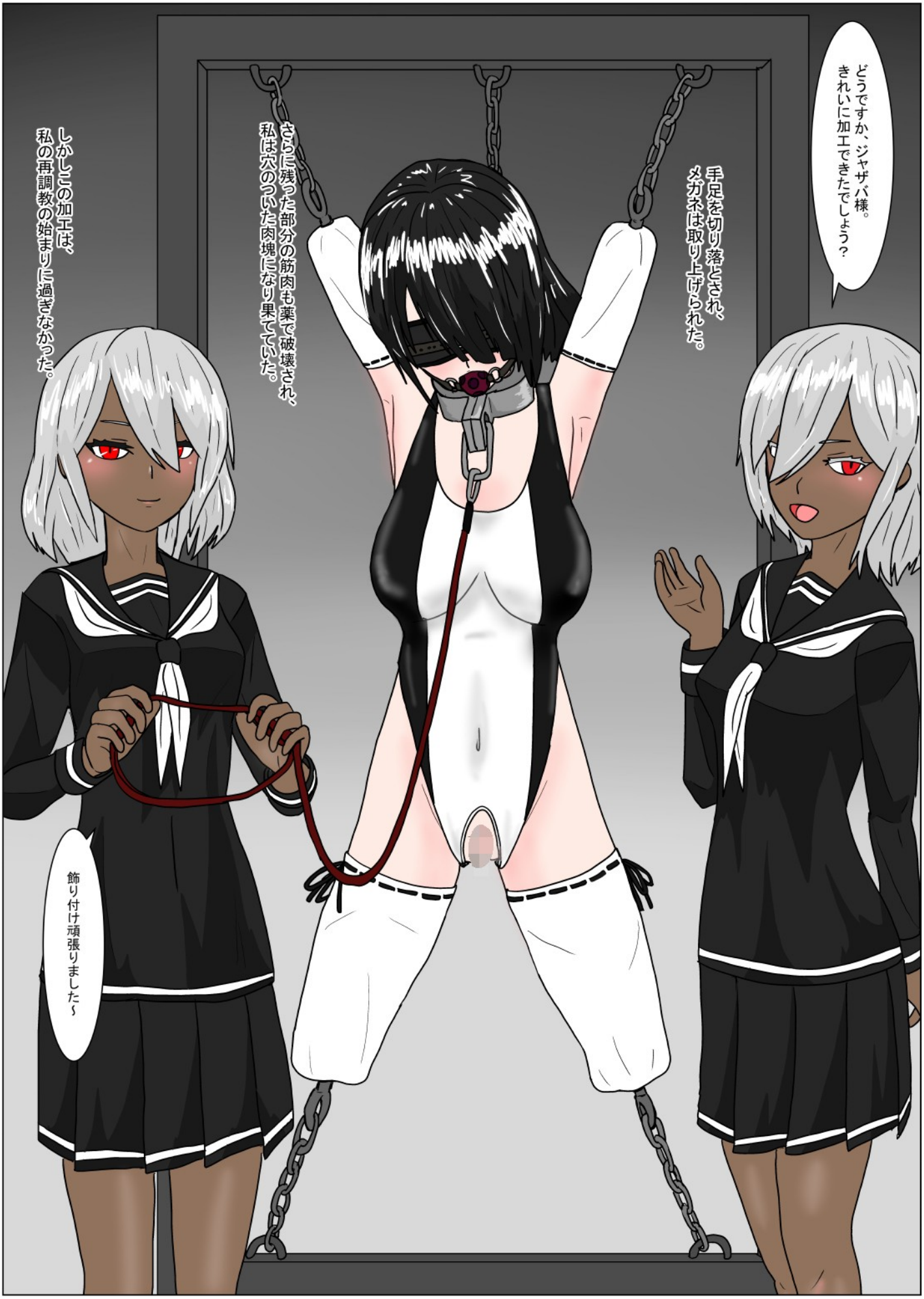

この度は私の花嫁を取り戻していただき感謝いたします。ネヴィル閣下。
ジャザバ殿のお役に立てて、私もうれしいですよ。
以前に一度逃げられているそうですが・・・
お恥ずかしい限りですが・・・私の管理の至らなさ故です。
今回は万が一にも逃亡を許さぬよう、万全の管理体制で花嫁を迎える手筈です。
お手伝いが必要でしたら何時でも声をかけてくださいね。
微力ながら協力させていただきますよ。




ギッ
私はジャザバの花嫁となるための
「加工」が行われた。
ギッ
ギッ

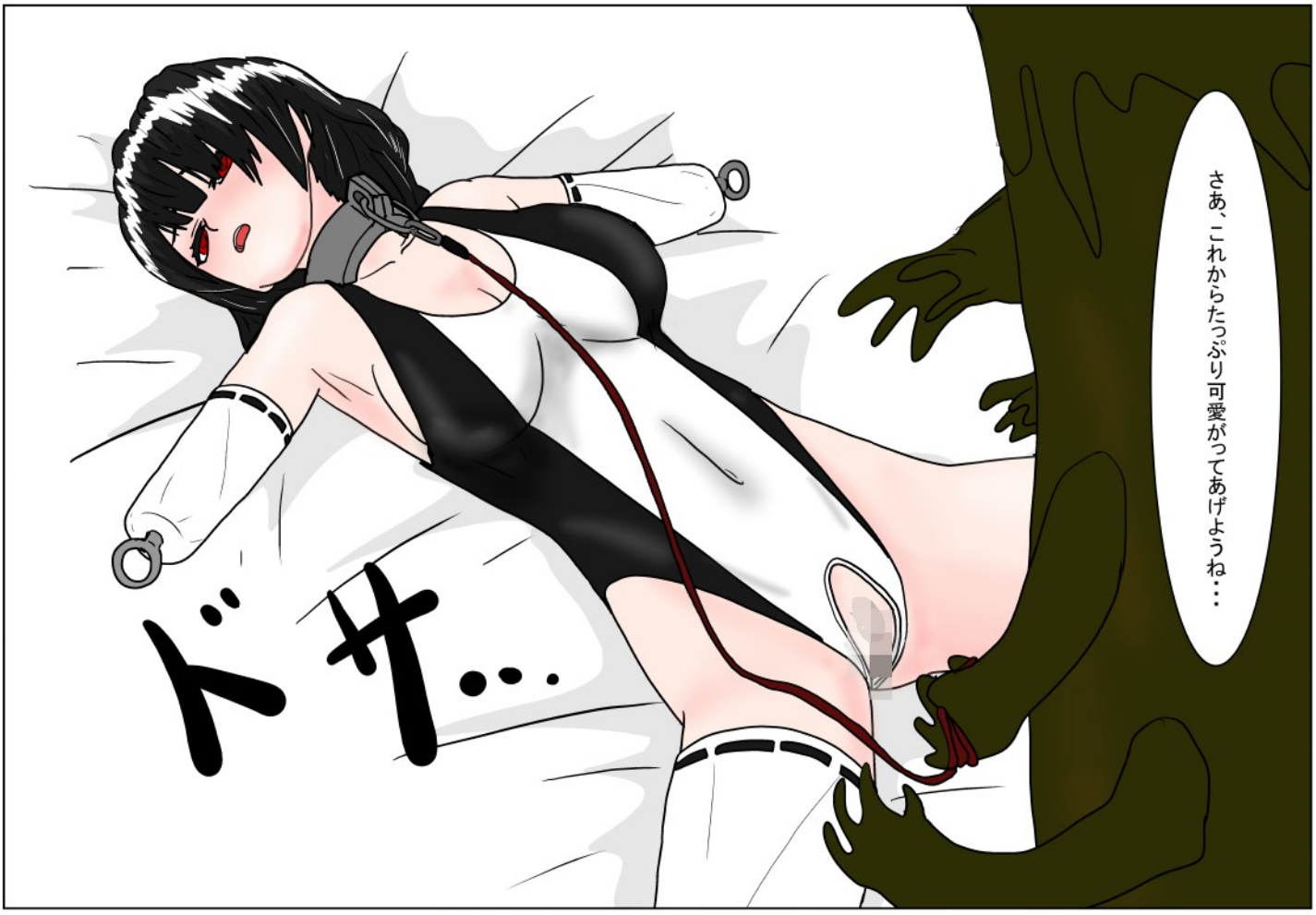

ふー
ふー
ふー
最後の出産がすんだあと…


チャリ…


どうですか、ジャザバ様。
きれいに加工できたでしょう？
手足を切り落とされ、
メガネは取り上げられた。
さらに残った部分の筋肉も薬で破壊され、
私は穴のついた肉塊になり果てていた。
しかしこの加工は、
私の再調教の始まりに過ぎなかった。
飾り付け頑張りました～


素晴らしい！
なんと美しいんだ・・・！
さあ、
そのかわいらしい顔を見せておくれ・・・
カポ…
けほっ
かっ
えほっ


逃亡防止のための致命的ともいえる改造を施され、
抵抗力を完全に奪われた私は、
ジャザバの行為をただただ受け入れるしかなかった…
チュプ
チュパ
ジュル
ペチャ
ジュ〜

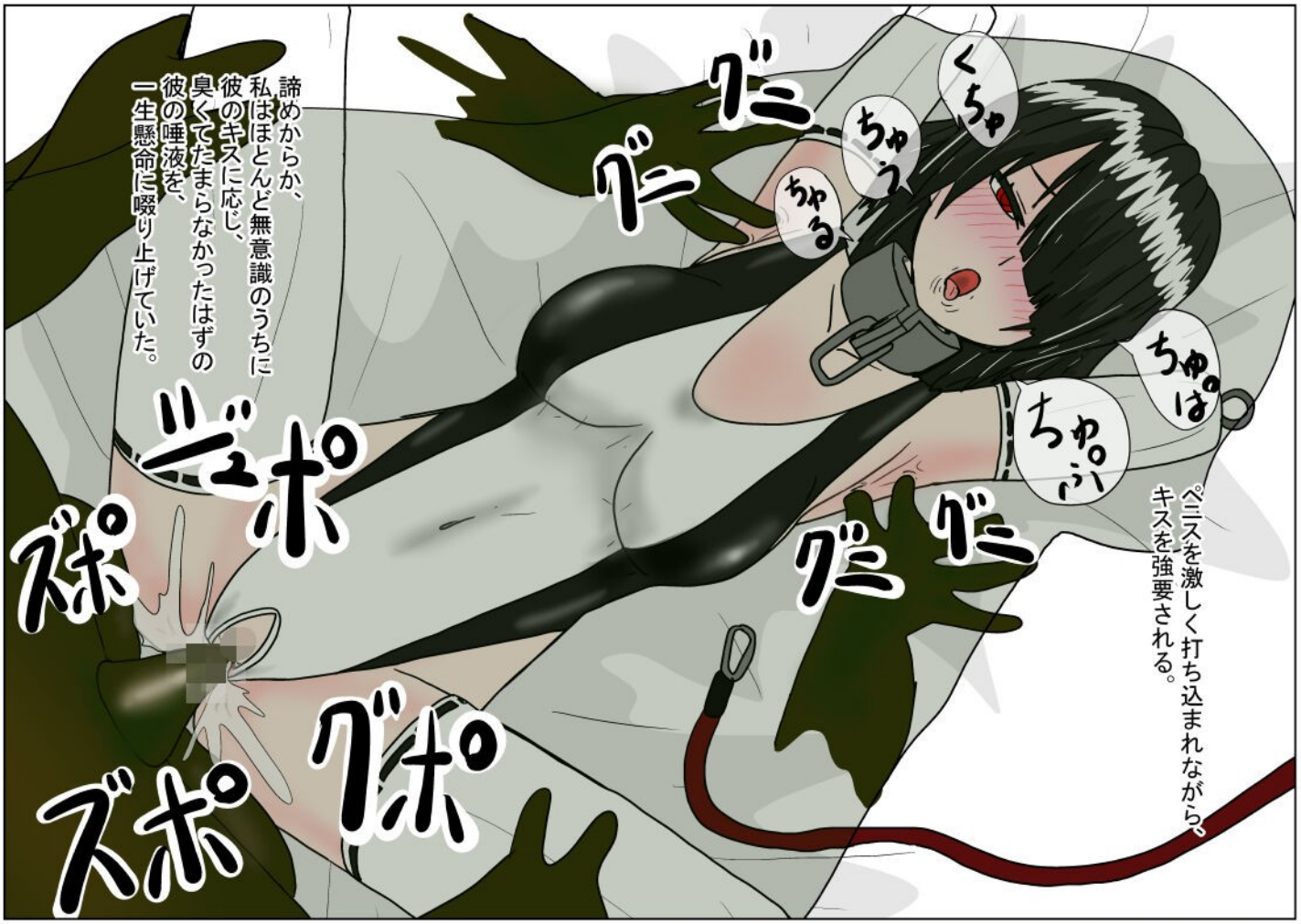

さあ、これからたっぷり可愛がってあげようね・・・
ドサ…


ほとんど1年ぶりの柔らかなベッドも、
もはや私に安らぎを与えてはくれない・・・
ジャザバの体が私に覆いかぶさる。
ベロ
体中を這い回る手と、
全身を圧迫する重みが、
これから始まる凌辱の激しさを予感させた・・・


激しく、だけども恐ろしく丁寧に…
ジャザバは私の体を隅々までまさぐっていく。
ヌルル
はっ
はっ
はっ
はっ
はあっ
ネトッ
3対の手と舌が、恐るべき熱心さでもって
皮膚の表面を撫でさすっていく。
グイッ
捕虜になって以降、延々と施された媚薬調教の影響か、
おぞましいはずの愛撫によって、
私の体は確実に昂り始めていた。


はっ
はっ
はっ
はっ
はっ
ペロ
ペロ
ペロ
ムニュムニュ
ズリ
ズリ
クチュ
クチュ
クチュ
クチュ
クチュ
肌の表面にジワリと浮いた汗を、ジャザバは丁寧に舐め取っていく。
舐められた部分から広がるもどかしい快感が、また別の場所からの発汗を促していく…
たっぷりと時間をかけて、ジャザバは私の体の隅々までを舐めとり、味わい尽くしていた。


ジャザバが私を犯す。
私の初めてを激痛とともに奪ったペニスが、再び私の膣内を蹂躙する…
「あの頃には苦痛しか感じなかったが、私の体が成長したからか、はたまた1年にわたる「調教」の成果か…
苦痛よりもむしろ、快感を多く感じ始めている私がいた…
ズチュ
ゴチュ
ゴチュ
ゴチュ
ゴチュ
うっ
うっ
うっ
うっ
うっ


ペニスを激しく打ち込まれながら、
キスを強要される。
諦めからか、
私はほとんど無意識のうちに
彼のキスに応じ、
臭くてたまらなかったはずの
彼の唾液を、
一生懸命に啜り上げていた。
ぐにゅ
ぐにゅ
ちゅぱ
ちゅぱ
ちゅる
ちゅう
くちゃ
ぐにゅ
ぐにゅ
ずぽ
ずぽ
ずぽ
ずぽ


獣のような体勢で、
背後から犯される。
上半身がベッドに押し付けられ、
肺が潰れて呼吸がままならない。
酸素を求めて必死に喘ぐ私の様子が、
彼をますます興奮させた。
ずっ
ずっ
ずっちゅ
ずっちゅ
ごちゅ
ふっ
ふっ
ふっ
ふっ
うっく
ぐっ
くっ

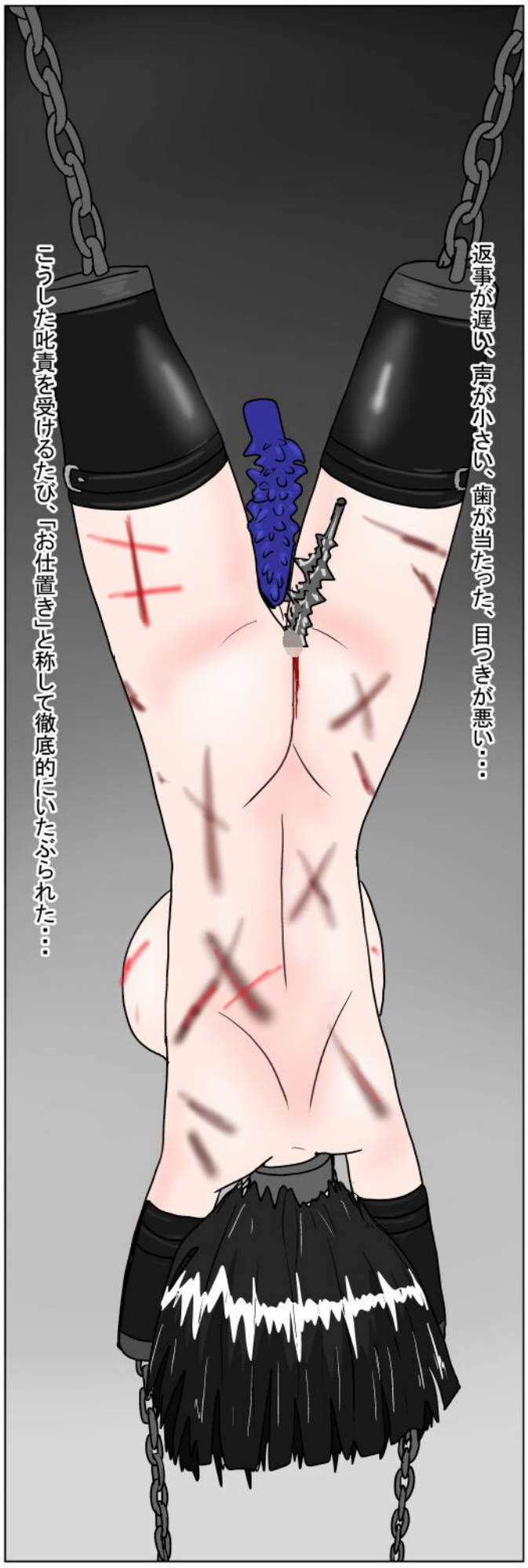

うぐっ
ぐっ
くっ
うっ
うぐ
ゴッ
ゴッ
ゴッ


あ♡
あ♡
は♡
あぁ！
あん♡
ユサッ
ユサッ
ズチュ
ズチュ
ズチュ
気付いたころには私は、
はしたなく嬌声を上げる、
ただのメスになっていた…


チュパ
ピチュ
チュパ
ピチャ
ピチャ
グニ
グニ
グニ
ジュポ
ジュポ
ジュポ
死ぬほど憎んだ仇の前で、
私は浅ましく発情する淫魔のような、
恥ずべきメス豚になり果てていた。

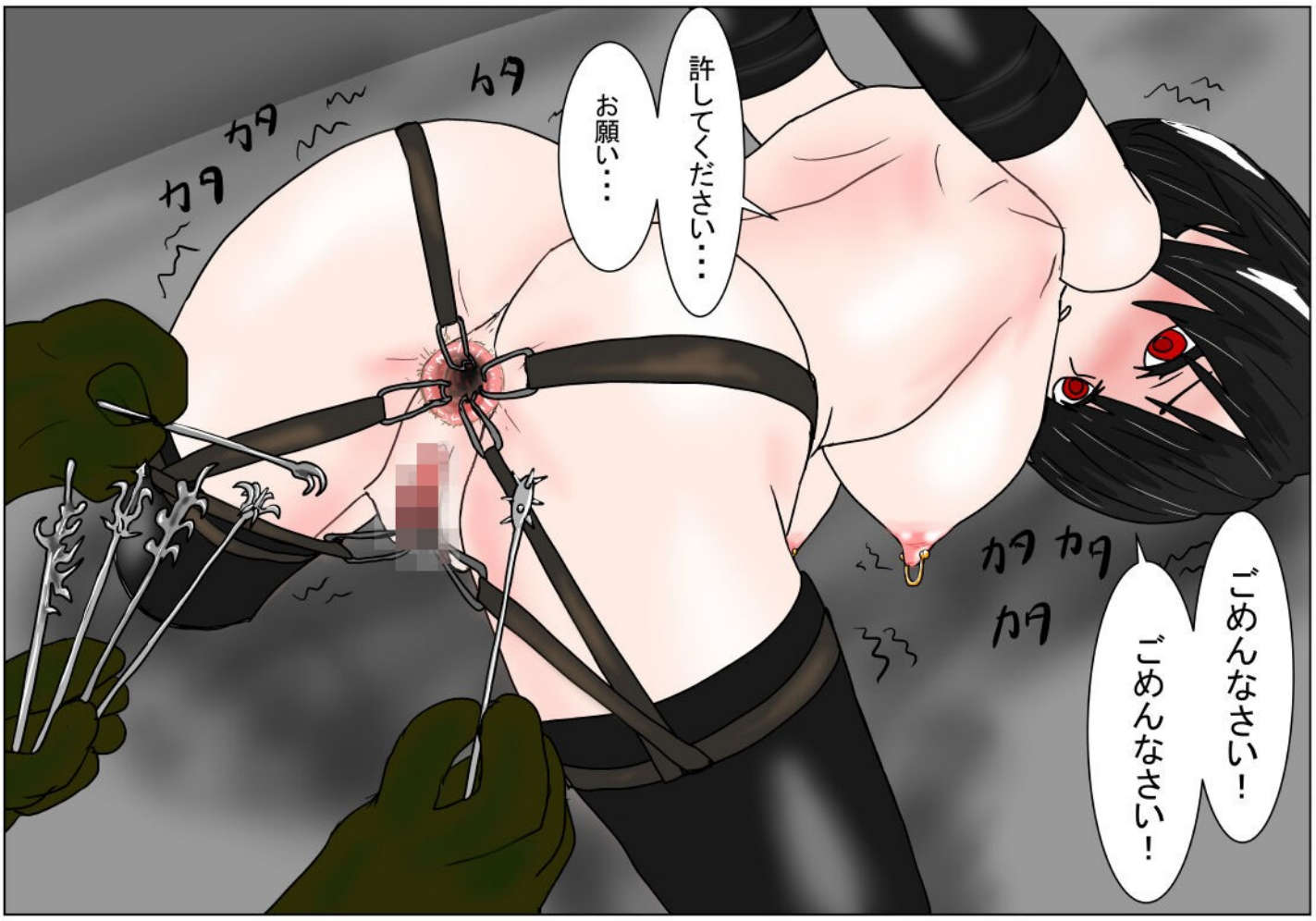

ああ、かわいいディアナ…
やはりお前は最高だ…
最高にかわいく、
最高にいやらしい、
私の花嫁だ…
これからもたくさん可愛がってあげるからね…
ブッポ
ブッポ
ガボ
げほっ
えぶっ
ごほっ
ジャラ
ジャラ


恋人や夫婦のような甘い情事を重ねる一方で、
彼は事あるごとに私に難癖をつけては
拷問まがいの調教を施した・・・
ミシ
ギッ
ミシ
ギッ
ミシ
ギッ


返事が遅い、声が小さい、歯が当たった、目つきが悪い・・・
こうした叱責を受けるたび、「お仕置き」と称して徹底的にいたぶられた・・・


んぎー!?
ふんぐぐ
ブスリ


ぎーぎーぎーぎーぎーぎー
ビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビクビク


ごめんなさい！
ごめんなさい！
お願い…
許してください…
カタ
カタ
カタ
カタ
カタ
カタ


そろそろ反省できたかな？
夫に口答えするとどうなるか…
しっかり理解できたかな？
ひっ!?
ひぃっ
ひゃっ
ひっ
うギィ
ギィ
ズリ
ズリ
ズリ
ズリ
ガリ
ガリ
ガリ
ガリ
ゴチュ
ゴチュ
ゴチュ


おや？
そんなに気持ちよさそうな声を上げて・・・
すっかりドMのメス豚になってしまったね・・・
これではお仕置きにならないなぁ
あっ♡
あぁ。
お゛っ♡
お゛っ♡
う゛あっ♡
ゴッ
ゴッ
ゴッ
ガリ
ガリ


「お仕置き」の内容は徐々に過激さを増していった…
ギッ
ギッ
ギッ
プル
プル
プル
プル
プル
へっ
へっ
へっ
へっ
次はどこに重りを吊るしてほしい？
お前の好きな場所をいじめてやるから、言ってごらん。


ガ
ガ
ガ
ん゛っ
ぅ゛ぅ゛
ぅ゛ぅ゛ぅ゛
ぅっ
ぅっ
決められた時間までトイレを我慢できなかった
お仕置きとして、
大量のイボがついた極太の張型で、
アナルを徹底的に掘り返される。
絶妙な弾力を有したイボの先端が、
腸壁のしわの1本1本を満遍なく掻き毟る。
ん゛ぐ!?
ぐっ!
ぐっ!
んんっ!!
ぐっ!
「食事をこぼした」という理由で、
自身の排泄物を強制的に食べさせられた。
アナルに差し込まれたチューブが、
そのまま口枷に接続される。
媚薬と下剤を大量に混ぜた栄養剤が、
チューブ内の排泄物と混合され、
それが口腔に向けて容赦なく流れ込む。
コポ
コポ
コポ


こふーっ
こふーっ
ふーっ
ふっ
ふーっ
ガタガタ
ガタガタ
ミシミシ
ギシミシ
彼より先に眠った(気を失った)ことの罰として、
巨大な杭に串刺しにされる…
膣を通り抜け、
子宮までを内側から押し上げる杭の圧迫感で呼吸が上手くできない。
体の震えが止まらず、血の気が失せた顔で許しを請う私を、
彼は笑いながら2時間も放置し続けた。


はっ
はっ
はっ
はっ
はっ
フェラチオの際、
舌の動きがぎこちないと罵倒された。
私は「ペニスが大きすぎて舌が動かせない」と
訴えたが、彼はそれに対する答えとして、
恐ろしい形状の器具で私の口内を蹂躙した。


かはっ
はっ
けほっ
げえっ
えうっ
カチャ
カチャ
カチャ
カチャ
ガシュ
チャリ
チャラ
胃の中身はもちろん、
涙も鼻水も唾液も…
顔から出るあらゆる体液が枯れ果てるまで、
口の中を嬲られ続けた。


数ある「お仕置き」の中で私が一番恐れたのは、
触手で満たされた「お仕置き部屋」への監禁だった。
ズル…
ごめんなさい！
許して！
ズル…
ごめんなさい！
嫌なんです！
この部屋だけは！
ゾロ…




触手達は我先にと
私の穴を目指して殺到し、
その凶悪な形状の体躯を
私の中に押し込んでくる。
ああっ
ヌル
ヌル
ズブ
ズブ
ニュ
ニュ
ニュ


群がってくるのは太い触手だけではない。
細く、柔らかな触手達が私の体中を這い回る。
皮膚を強く押し込むように蠢く触手もいれば、
くすぐるように表面をなでるだけの触手もいる。
暗闇の中、体中で行われる不意打ちのような触手の愛撫は、
ごく短い時間で私を絶頂の寸前まで追い詰める。


魔人ネヴィルから尋問を受けたとき…
ネヴィルが「説得」だと
言っていた意味が、
今更ながらに理解できる。
ニュル
ニュル
ゾル
ゾル
グチョ
グチョグチョ
グチョ
グチョ
はぅ
かふっ
けふっ
めっ
えっ♡
あぅ♡

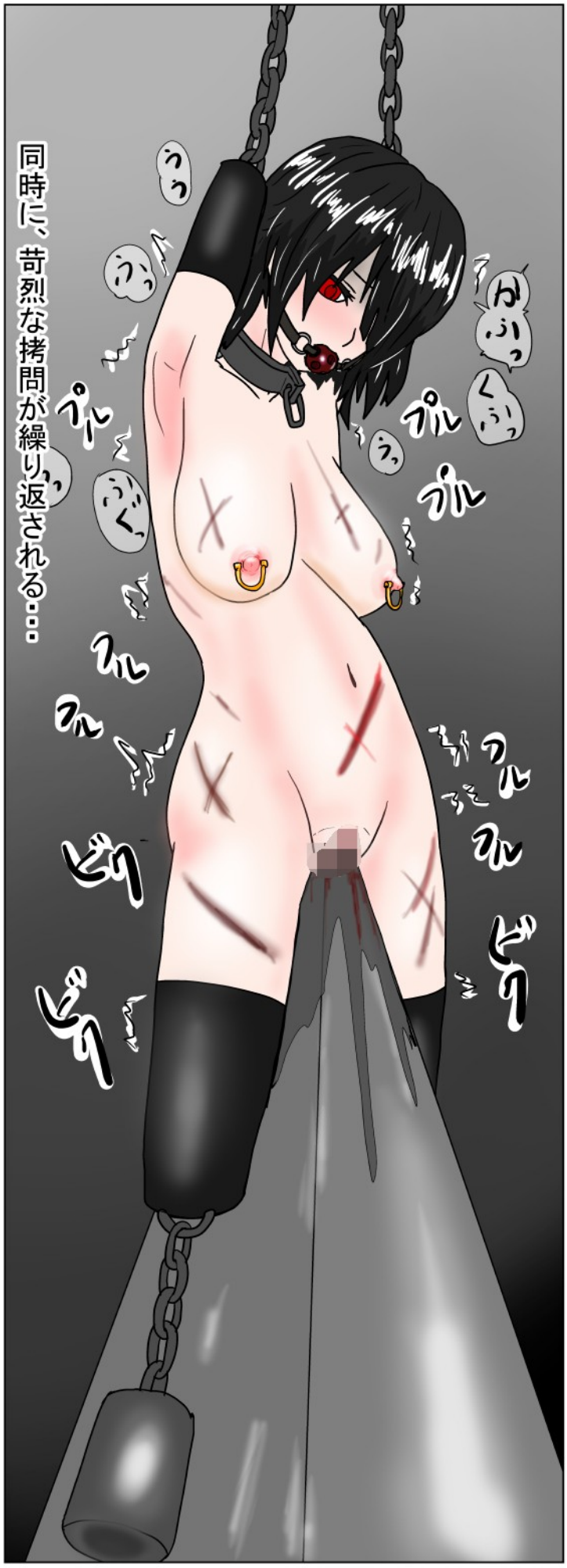

このお仕置き部屋の触手達は、
それほどまでに苛烈だった。
ゴチュ
げっ
えっく
えふっ
けほっ
ごぼ
グニュ
ズニュ
グチョ
グチョ


数日後、
お仕置き部屋の扉が開かれたときには、
あー
あー♡
はっ
はっ
あー♡
はぁ
あー♡
はぁ
あー
あー♡
心の奥底に燻っていた反抗心も、
怒りも、何もかもが絶頂の余韻と
快楽への渇望で塗り潰されてしまった。


ズチュ
グチョ
グチュ
グチュ
グチョ

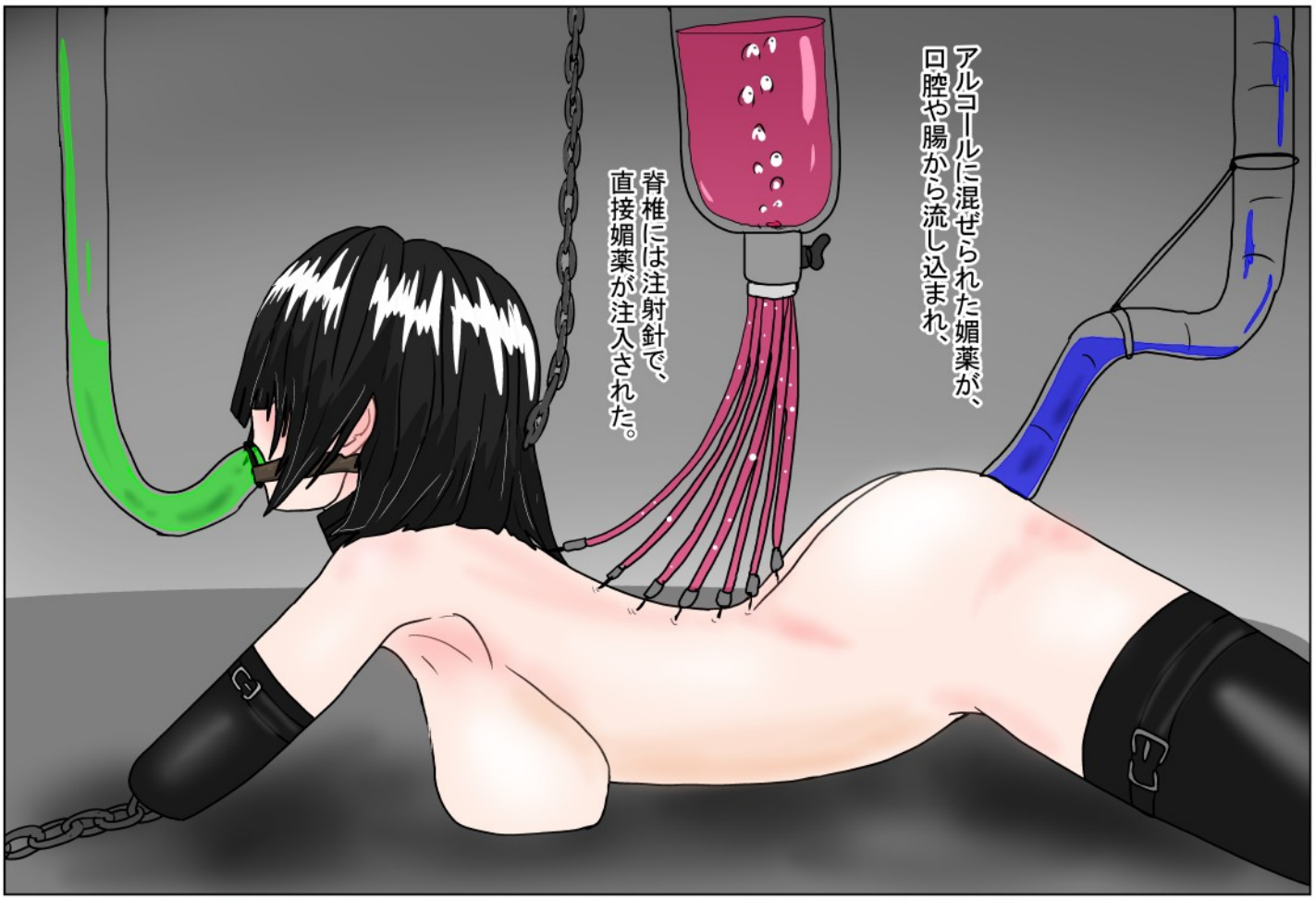

ジャザバ自身による丁寧で徹底した愛撫が繰り返され…
あはぁ♡
あ♡
あ♡
はっ♡
あぁ♡
あ♡
あ♡
はあ♡
はぁぅ♡
ぅ♡
グチョ
グチョ
グチョ
グチョ
グニ
グニ
グニ
グチョ
ブルブル
ブル
ブルブル
グチョ
グチョ
グチョ
グチョ
ピチャ
ピチャ
ピチャ
グチョ
ダリッ
あっ♡
あ♡
あぁ♡
かはっ♡
あ♡
あんっ♡
あ♡
グチョ
グチョ
あ♡


ギッ
ギッ
かはぁ
はっ
はっ
かっ
ブラ
ブラ
プラン…
ポタ
ポタ


同時に、苛烈な拷問が繰り返される…
ぬふっ
くふっ
うっ
うっ
うっ
うぐっ
プル
プル
プル
フル
フル
フル
フル
ビク
ビク


私の中の恐怖、復讐心、
反抗心や怒り・・・
ジャザバに対する負の感情は、
玉ねぎの薄皮をはがすように、
1枚1枚丁寧に剥ぎ取られ・・・
最終的に私の意識は、
快感を貪る欲望と、
彼に対する服従心だけが残された・・・


さあ、ゆっくりと息を吸い込むんだ。
ゆっくり、大きく吸い込んで・・・
調教や拷問と並行して、
大量の媚薬や麻薬が投与される。
コポ
コポ
コポ
コポ
コポ
ふっ
ふうっ
うっ
ふっ
ふうっ


アルコールに混ぜられた媚薬が、
口腔や腸から流し込まれ、
脊椎には注射針で、
直接媚薬が注入された。


耳や乳首、卵巣にまで…
もはや私の体で、針で刺されていない場所、
薬が投与されていない部位は存在しなくなっていた。

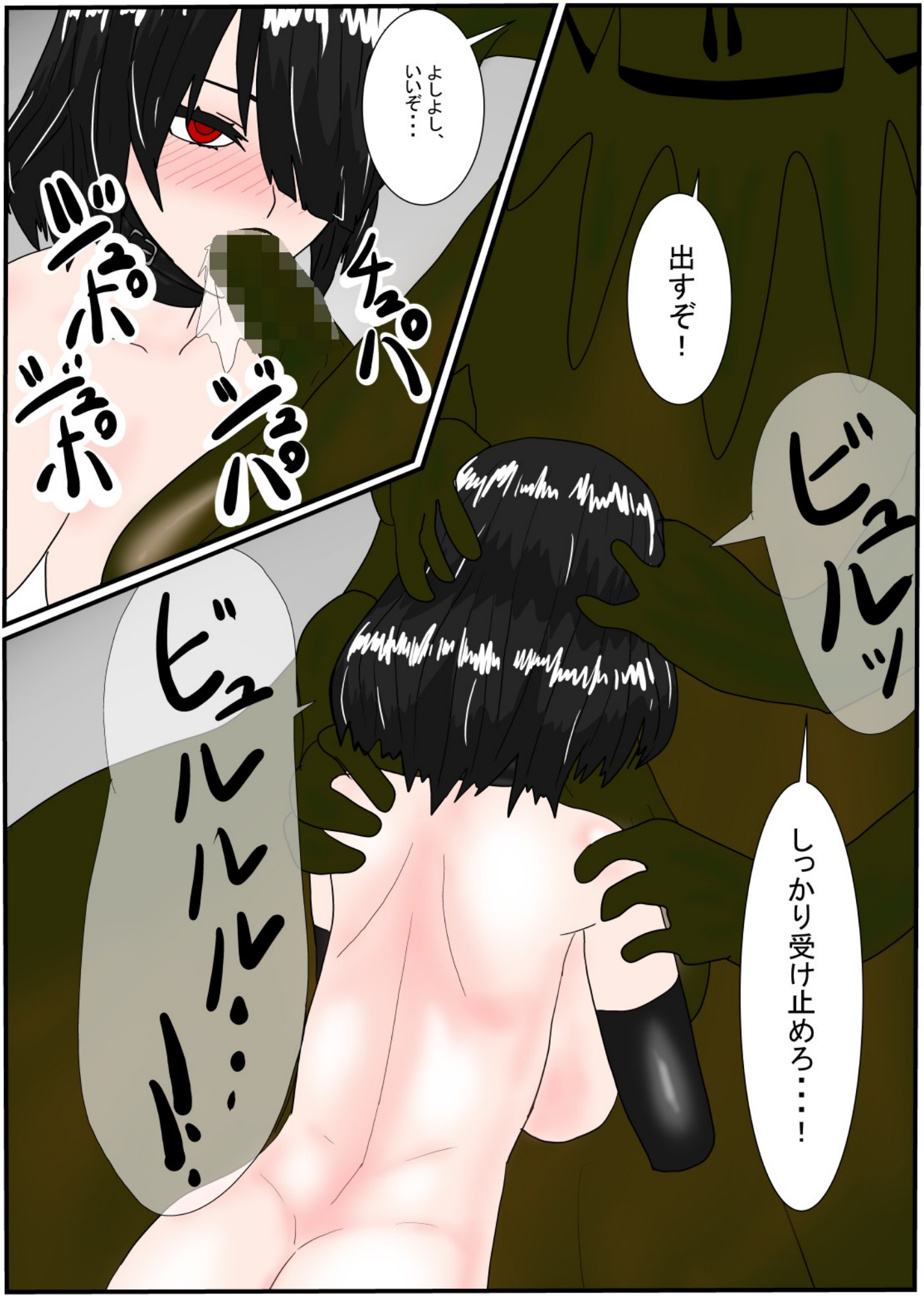

あっ♡
ふっ♡
あく♡
ふっ♡
ふっ♡
ふっ♡
ふっ♡
ヒ
あ
ヒ
ヒ
!!
ヴィッ
ヴチョヴチョ
体は常に発情した状態が維持され…
私は何をされても、快感を得てしまう状態になっていた。


うっ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
グチュ
グチュ
グチュ
グチュ
快楽に逆らわなくなった私を、
彼はさらなる情熱でもって嬲り続けた。
様々な衣装をあてがわれ、
私は彼のあらゆる要求に応えるようになっていた。
クポ
クポ
クポ
クポ
クニュ
クニュ
クニ
クニ
クチュ
クチュ
クチュ
クチュ


かわいいよ、ディアナ・・・
この衣装もとても似合っているね・・・
レロレル
チュプ
チュル
レル
レル
チュル
グニ
グニ
グニ
ヲチュ
ヲチュ
ヲチュ
ヲチュ


いいぞ。
もっと声を出せ。
もっと感じるんだ。
もっと声を出せ！
気持ちいいか？
あっ！
ゴチュ
ゴチュ
ドチュ
おおお!?
ぎもぢいいでぼう!!
ゴチュ
ツーポ
ゴチュ
いいです!!


私は…
私は…
もう…
じゅるるるじゅぷぷ
じゅぱじゅぱ
べちゃる


よしよし、いいぞ…
ポッ
ポッ
ポッ
出すぞ！
ビュルッ
しっかり受け止めろ…！
ビュルルル…!!


あっ♡
あはっ♡
はぁっ♡
はっ♡
はっ♡
はっ♡
はっ♡
はっ♡
どれ、
口の中を見せてごらん
クパ
クチュ
よしよし、えらいぞ、
舌の上で
しっかり味わうんだ


よし、飲んでいいぞ。
んくっ
んくっ
ごくん♡
…ふふふ、
いい子だ。


かわいいディアナ…
本当に良い子になったね…
ペチョ
プチャ
ピチュ
クチュ
ピチュ
さあ、
今日もたっぷりと
可愛がってあげようね
あ♡
ズイッ


はい・・・。
たくさんいぢめてくださいね・・・
旦那様♡

fin.




スパイや工作員は、身分が発覚した場合、現場判断による即時処刑が通例となるが、確保したのが情報機関や治安組織だった場合は厳しい取り調べが行われる。
その際の尋問方法は、「処刑される方がまし」と言われるほど苛烈になることが多い。
彼女は、魔導軍の前線部隊や国境警備部隊を突破して潜入できるほど優秀な工作員であったが、帝都中枢を防備する中央防衛軍の情報保安隊に拘束された。
逃亡を防止するために眼球を抉られ、四肢を切り取られた後、「尋問」と称して体の損傷をまるで気にしない暴力が振るわれた。
尋問の開始から1時間もたたないうちに、汚い言葉で魔族を罵倒していた口からは、悲鳴と懇願しかもれなくなっていた。
ゴムっ!
ゴムっ!
ゴムっ!
ゴムっ!
助けて!
全部しゃべるから!
お願い!
あ!
が!
あ!?
あ!!


精神を操る一部の魔族にとって、
人間の脳内に隠された情報を取り出すことは
特に難しい仕事ではない。
厳しい鍛錬によって筋力や精神力を鍛え上げても、
脳に直接流し込まれる微弱電流と神経伝達物質は、
隠された情報をあっという間に剥き出しにする。
「しゃべるくらいなら舌を噛んで死ぬ」
威勢のいい啖呵を切った彼女は、
結局、自身の知るあらゆる軍事情報や
星捧社の内部事情を、余すことなく吐き出していた。
ビッ
ビッ
ビッ
ビッ
ビッ
ビッ
ビッ
ビッ
ビッ
ビッ
ビッ
ビッ
ビッ
ビッ
ビッ
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ
あっ


情報保安隊の管理する地下牢に、
オブジェが1つ追加された。
手足を失った2人の女が、
互いの口を相手の肛門に
接続した姿で横たわる。
情報を絞り尽くされた彼女らに、
もはや工作員としての価値はなく、
最低限の水と栄養素を補給されながら、
地下に連れてこられる哀れな犠牲者たちの
恐怖心を煽るためだけに生かされ続けていた。